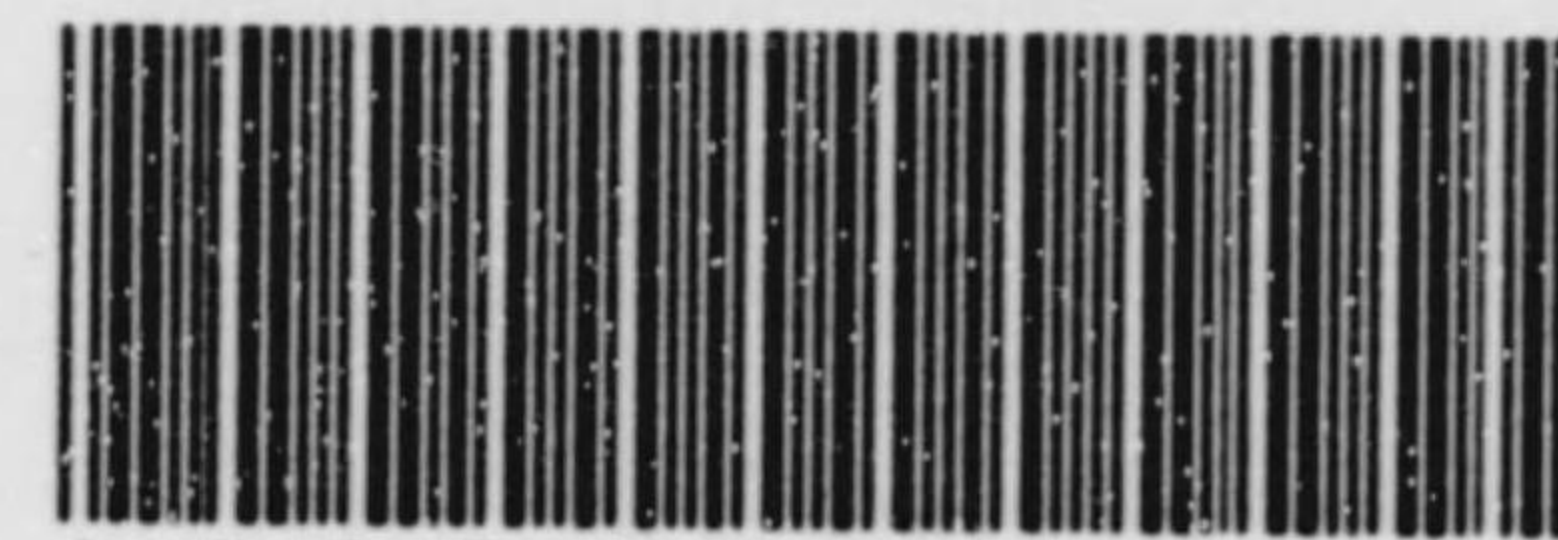


390.4
I 569



* 0055555000 *

0055555-000

390.4-I569k

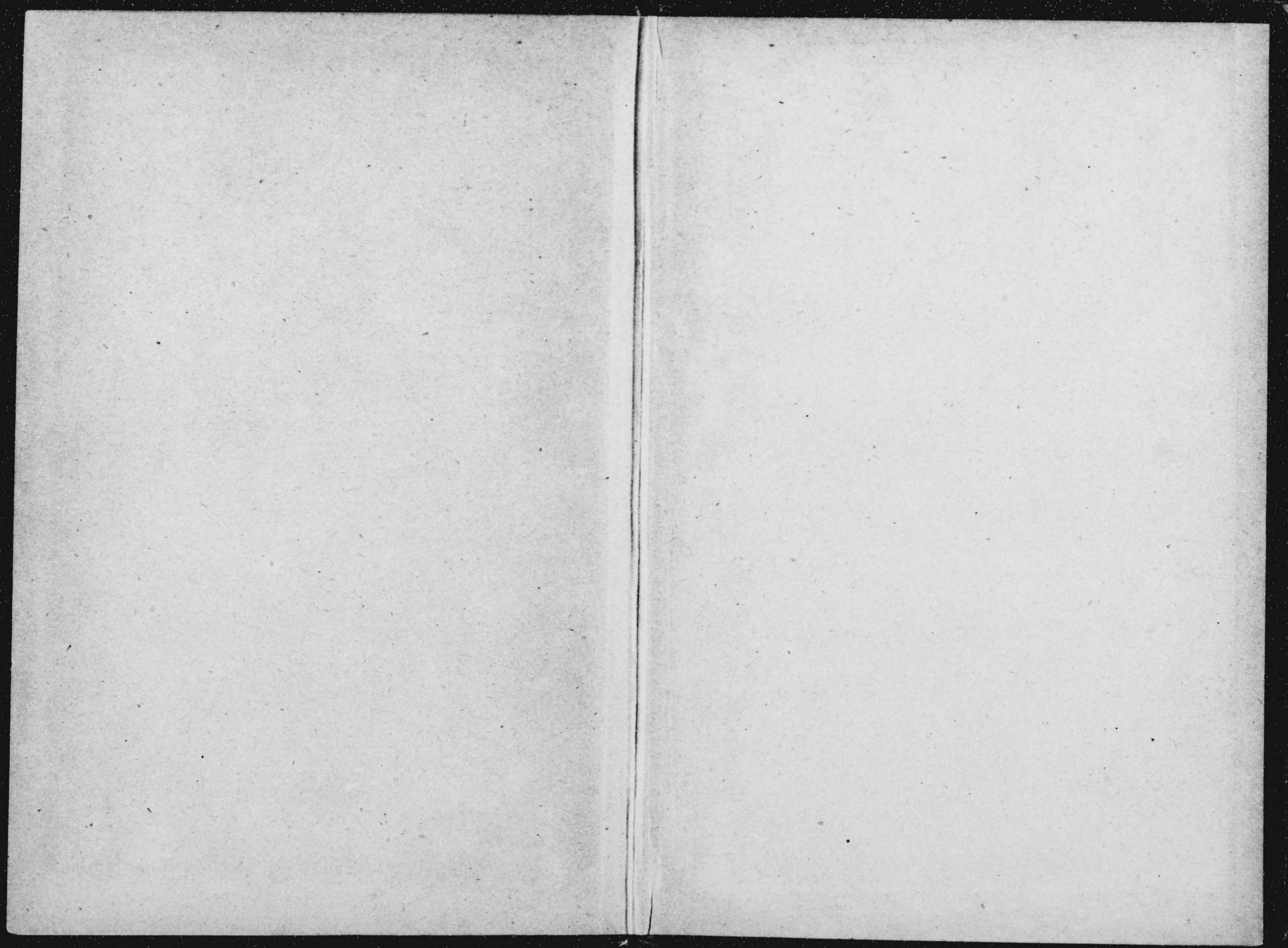
国防政治論

石原莞爾・著

聖紀書房

1942

AJA



工 3X-74

中陸
將軍 石原莞爾著

國防政治論

聖紀書房

390.4
I569k



491029

芦田均氏寄贈書

國防政治論 目次

第一章 戦争指導機關……………四

 第一節 政戦兩略の關係……………四

 第二節 大本營……………二四

第二章 國防國策……………一九

 第一節 最終戦争……………二〇

 第二節 昭和維新の方針……………二五

 第三節 大東亞戦争……………三一

 一、大東亞戦争の性格……………三一

 二、國民の責務……………四

 三、大東亞戦争と最終戦争……………四九

目次……………一

第三章 國防國家の政治

第一節 政治組織

- 一、指導者原理……………七
- 二、統制批判……………六
- 三、人體との比較……………八〇
- 1. 大本營……………八一
- 2. 政黨……………八一
- 3. 軍と政治……………一〇一
- 4. 官憲……………一七
- 5. 自治組織……………一三
- 四、綜合的觀察……………一三
- 五、滿洲國の政治組織……………一三

第二節 人……………一五〇

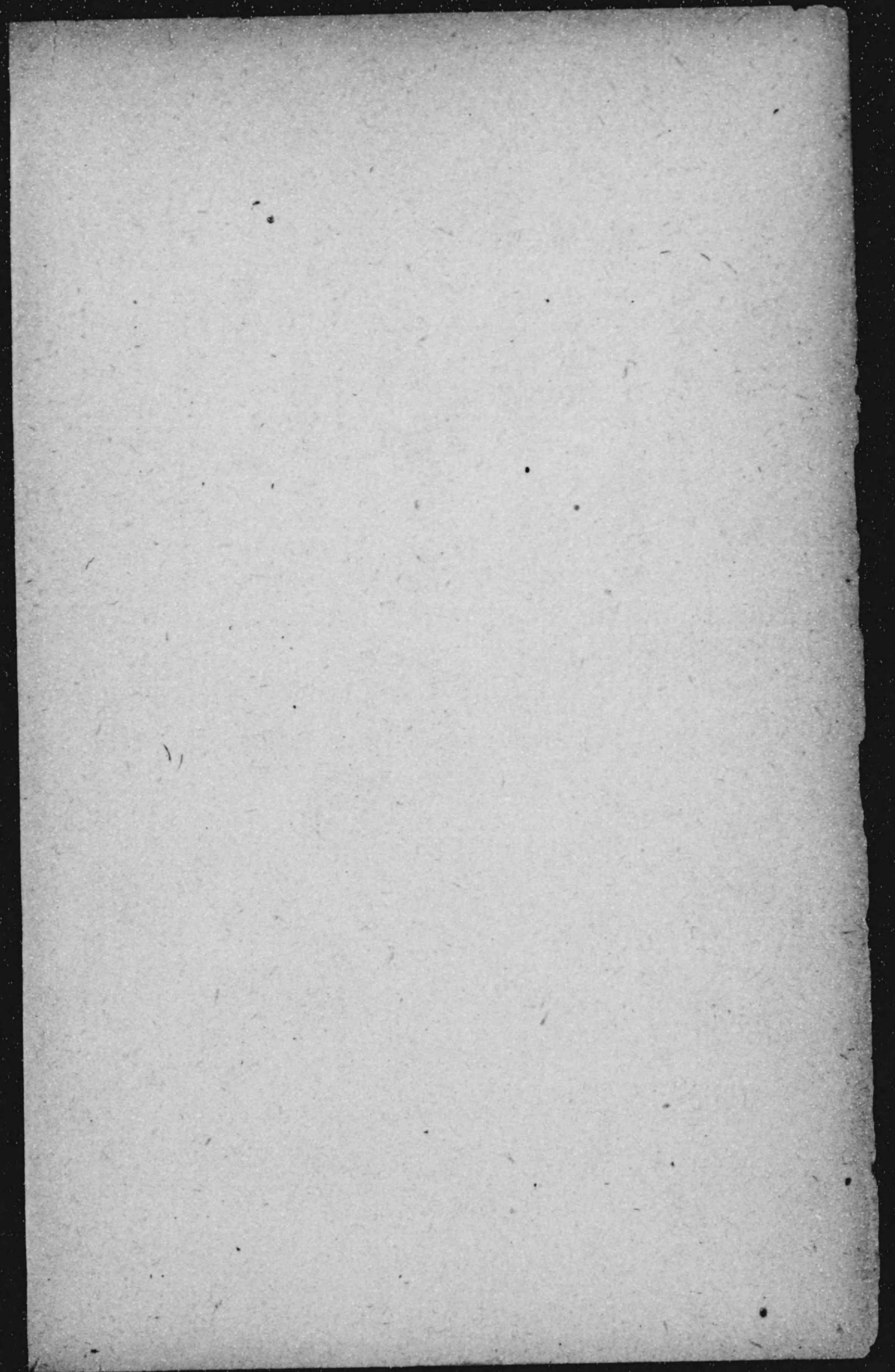
- 一、世界觀……………一五

- 二、生活……………一七一
- 三、教育……………一八三
- 四、動員……………一九〇

第三節 物(生産)……………一九二

- 一、農村の改新……………一九二
- 二、經濟建設……………一九四
- 1. 政治と經濟……………一九四
- 2. 資源と技術……………一九六
- 3. 發明の獎勵……………二〇〇

- 補 日本の國防……………二二九
- 補 支那事變の解決……………二五三
- 補 ナポレオンの對英戰爭に就いて……………二八五
- 編輯後記……………三〇四



欠

MISSING

緒戦に驚異的戦果を挙げた大東亞戦争の第二年を迎へる今日、太平洋に面しアメリカに向つた最突端のこの聖地に於て、國防に關する講義をする機會を得たことは、私の非常に感激するところであります。

政治は私共軍人は全く門外漢であります。たゞ國防といふ見地から政治に全く素人の私が期待するところをお話して見たいのであります。國防全體の見地から、第一に戦争指導機關をお話する必要が起きて來るのであります。といふのは、戦争は國家の持つてゐるあらゆる力を綜合運用しなければならぬのですが、その力を大別して、武力と武力以外の二つに分けることが出來ます。武力の運用が統帥であり、武力以外の國力は政治によつて運用せらるゝのであります。この統帥と政治、即ち政戦兩略、これを完全に一致させて國家の總力を最も合理的に發揮するには、どうしてもこの二つの力を運用する機關が必要であります。その戦争指導機關によつて國防國家の國策が確立せられます。それで第二に國防國策に就いてのお話をし、

最後に國防國家の政治に就いてお話しして見たいと思ひます。

第一章 戦争指導機關

第一節 政戦兩略の關係

政戦兩略は、丁度陰と陽の關係のやうに、多くの場合この二つは相反撥する作用を有してをります。一番皆さんの知つてゐる例からいへば湊川の戦ひです。足利高氏が九州から大軍を率ゐて京都に攻め上つて来る。朝廷では御前會議を開いて楠木正成を河内の國から招致し、作戦に關する意見を聽かれます。正成の答へは、今日の言葉で言へば遊撃戦法が宜しいといふのです。「畏多いことであるが主上は叡山に御退きを願つて、——當時の武力を以てしては叡山の攻撃は非常に困難でありま

す——自分は河内の國に歸る。高氏の根據地は九州であるから、懸軍萬里の軍である。近畿には味方が多いから叡山を攻めることが出来ないのに乗じて、その背後連絡線を脅かせば、如何に強力な武力でも遂に參つてしまつて退却しなければならぬ状態になる、そこで一撃を加へよう」といふのであります。これは武力の強大なるものに對し武力の弱いものによつて多くの場合に採用せらるべき戦略であります。戰略的見地からは極めて合理的といはなければならぬ。丁度蔣介石が日本軍に對してやつてゐるやうな流儀であります。

ところが政治家連中の言ふのには「それは怪しからん、苟も皇師が一戦をも交へないで皇都を引拂ふといふことは皇師の威嚴に關する、絶対にいけなし」といふことで、正成は御承知の通り湊川に出兵してあの通りの戦死を遂げたのであります。この場合政治からいへば皇師の威嚴、軍事的には作戦の勝利、この二つの關係はかういふ風に多くの場合一致しないのであります。

一々例を舉げてをれば切りがありませんが、第一次歐洲戦争の時もさうであります。ドイツ側は一九一四年、開戦になるとすぐ統帥部の強烈なる要求によつてベルギーを侵して西北部フランスに侵入したのであります。ヴェルダンから南、ドイツとフランスの國境線は、最も堅固に守備せられてをり、ドイツがこゝを避けて西北方から主力を以てフランスの心臓部を衝くことは、軍事上からは極めて合理的です。即ちベルギーの中立侵犯は、作戦的の見地から絶対價値がある。ところが政略的には由々しき問題であります。ベルギーの中立侵犯は英國の戦争加入を豫期しなければならぬのであつて、政治的には非常に希望しないところでもあります。現にいよいよ動員に決定してから、英國の態度が偶然かは知りませんが甚だ曖昧で、カイゼルから見ると、若しもドイツがフランスを攻撃しなかつたならば英國は中立を守るのぢやないかと思つたのです。それで七月下旬、參謀總長のモルトケ大將を呼びつけて、フランス方面の攻撃を止めてロシアに向つて攻撃しろと云ふ命令を下した。モ

ルトケは非常に困つた。元來、ドイツは二つの作戦計畫をもつてゐたのであります。一つは主力を以て西方即ちフランスに對して攻勢をとる場合であり、他は東方即ちロシアに對して攻勢に出づる場合の二案を準備してゐた。ところが、當時のヨーロッパの政治的情勢から考へて、フランスまたはロシアに對する單獨戦争は絶対にあり得ないと確信するに至つたため、第一次歐洲大戰直前に作戦計畫を一本にして、一旦開戦となれば状況の如何を問はず、全力を以てフランスを攻撃することに決めたのであります。それはカイゼルは知つてゐる譯である。それなのにモルトケ大將を呼びつけて、ロシアに向つて攻撃しろと言ふ。これは技術的に不可能である。參謀本部は非常に困つた。その折幸か不幸か、ルクサンプブルグ附近でフランス軍とドイツの軍とが衝突したといふ報告があつたため、とうとうカイゼルも我を折つて作戦計畫通りにしたが、一時は非常に混雜をしたのであります。このことがモルトケに精神的打撃を與へ、第一次ヨーロッパ戦争の運命に目に見えない悪影響を與へた

ものと考へます。

また一例を挙げれば、越えて一九一五年、西方フランス方面で戦線が固定する。ドイツは盛んにロシア方面に對して攻勢に出る。かういふ状況で、政略的見地から英國並にフランスの政治家は、ダーダネルス海峡を突破して黒海へ入つてロシアと連絡することを希望したのであります。陸軍の見地から言へば、敵の要塞の前で如何に貧弱な要塞でも海軍力で海上からそれをやつつけることは容易ぢやないのであります。上陸することは非常に困難である。しかのみならず今西方戦場でも油断が出来ない状況である。一兵でも多く一番大切の西方戦場に持つてゐなければならぬ。多くの軍隊をこの方面に割くことは戦略的には希望しないことでもあります。ところが民主主義國家に於ては、作戰は通常政治に従屬してゐるから、作戰の希望は容れられないでガリポリ半島の上陸作戰となり、聯合軍は非常に大きな損害を受け、とうとう目的を達せず、甚だしく聯合軍作戰の威信を問はれるやうになつたのであ

ります。

このやうに多くの場合利害が相反する政治と統帥とを如何に協調させるか、如何にしてその総合的力を最高度に發揮させるかといふことが、戦争指導の一番大きな眼目であります。

この困難な政戦兩略の調整を完全になし得るのは、外國では時の主權者が同時に總軍司令官である時に限ると見なければなりません。丁度ナポレオンが、フランス皇帝であつて而もフランス大軍の總指揮官であるといふ時に於て、ナポレオンの一存で政戦兩略が完全に統一せられるのであります。ところがさういふことは非常に珍しい場合です。世界ではちよいとあるが、一つの國家として見れば數百年に一人出るやうな場合であります。現に世界的の大國としては、ナポレオン以來は先づ今日までは嚴格なる意味に於てはかういふ場合はなかつたのであります。第一次歐洲戦争以後弱小國家にはケマル・パシヤとかフランコ將軍乃至蔣介石の如きさうい

ふ傾向になつてをるのでありますが、本當に強大の國家にはナポレオン以後は現れてゐないのであります。今日、あの專制的力を持つてゐるスターリンと雖も、名前はどうかあらうと、今日ロシアの作戦を完全に自分で支配してゐる譯ではないのであります。スターリンが本當の作戦家であつたならば、獨ソ開戦初頭のある大惨敗はしなかつたらうと私は考へてをります。やはりあれは統帥が政治の犠牲になつた、作戦が政治の犠牲になつた觀があると思ひます。ドイツ側の戦争力が舊ポーランドのソ聯新領地に於けるソ聯軍に比べて遙かに優越してゐるといふことが、一般の評でした。ソ聯が戦を合理的にやるためには、ドイツ側が出て來たならば機を逸せず一舉にスターリン陣地に退いて頑強に抵抗すべきであります。このやうな大膽な意見を素人の皆様がいゝ、加減に言ふのはいゝが、私は戦に關しては玄人の一人になつてをるのでございますから、かやうなことは戦争後十分なる材料を集めて論斷しなければいけないのですが、私はさうぢやないかと思ふのであります。

また今日ヒットラーはドイツの總軍司令官になつた。ドイツ人の言ふところではあらゆる作戦はヒットラーの頭の中から現れて來てゐるといふ。私はこれがどこまで本當かといふことは、將來の歴史的研究まで保留しなければならぬと考へます。この相反撥し易いところの統帥と政治とが、民主主義國家に於ては、兎も角統一されてをるのであります。統帥は通常政治に従屬してゐるのです。従つて不統一は免れるのであります。同時に今言つたやうに統帥が政治の犠牲になる場合が多くあります。而もやはり武力の勝敗といふものが、戦争に最も重大な關係を持つてゐる。その一番大切なものが、政治の犠牲になるのですから、戦争の運命に芳しからざる結果を生んで來るのであります。今言つたガリポリ半島の上陸やスターリンの初期作戦だけでなく、これが非常に多いのであります。そこで君主國に於ては謂ゆる統帥權の獨立といふ問題が起り、統帥部が獨立して政府に對立し、君主に直屬する制度が生れて來たのであります。これは作戦の運用上非常に便利です。第一次歐

洲戦争初期のドイツ軍の作戦はさうであります。神速果敢の、政略を無視した作戦をやつて、戦争の運命に大きな効果を與へました。若しドイツがマルヌ會戦で勝つて、第二次歐洲戦争でフランスの全軍を突破して叩きつけたその覇業を第一次歐洲戦争でやつたならば、ドイツの統帥權獨立は偉いものと言はれたことになつたのであります。

ところが、この制度にはかういふ利益もある反面、政治と統帥の争ひが酷くなり、戦争指導の統一を攪亂する惧れが非常に多くなるのであります。殊に持久戦争、長期戦争になりますとその關係が甚だしくなります。即ち、統帥權の獨立は武力の價値が高い短期戦争に於ては有利であります。持久戦争になると不利益になることが多くなつて來るのであります。で、今日赫々たる武勳を擧げつゝ、戦争を遂行してゐる我が友邦ドイツは、四面強敵に圍まれて常に歴史的に苦しい戦争ばかりやつた國であります。この君主國であつたドイツの統帥權の獨立するに至つた歴史を見れば、

今申したところの關係をよく示してゐるのであります。ドイツに於て、近代統帥權の獨立を見たのはモルトケ元帥の參謀總長の時代であります。フランス革命によつてナポレオンが出現して、それまでの持久戦争の時代から決戦戦争の時代に入りました。その研究が軍事に熱心なるドイツで最も發達して、ドイツ帝國の建設になつた。一八六四年のデンマークとの戦争、一八六六年の普墺戦争、一八七〇—七一年の普佛戦争、この戦争にドイツはモルトケ元帥を參謀總長にして素晴らしい決戦戦争を實行し得たのであります。その作戦の素晴らしい成果を擧げることによつて、この戦争の間に於て事實的に統帥權の獨立が行はれることになつたのであります。法制的に參謀本部が完全に政府の支配から離れたのは、一八八三年、普佛戦争の十年以上あとであります。かやうにこの統帥權の獨立といふことが、ドイツに戦勝をもたらした非常に力強い作用をなし、ドイツ參謀本部は國民の尊敬の的になつて、第一次歐洲戦争を迎へたのであります。開戦當初は、素晴らしい結果を擧げま

したが、マルヌ會戰の失敗後、戦争が持久戦争になつて來ると、參謀本部系統と政府關係との折合が常に悪く、遂に徹底せる惨敗を喫する大きな原因になつたのであります。さうして、ヒットラーが天下を取るまで社會民主黨のドイツ國に於ては勿論統帥は政治に従屬し、參謀本部系統のドイツの軍人、學者の多くの人々も統帥權の獨立は、總力戰の指導には適當ぢやないといふ意見に傾いてゐたのであります。

第二節 大本營

ところが、こゝに世界にたつた一つの例外があります。これが大日本帝國であります。「昭和維新論」(「世界最終戰と東亞聯盟」九八頁)を見ますと、

「聖斷一度下らば、一億臣民翕然己を捨ててこれに一如し奉る心境は、我が國體の精華であり、天皇親政は皇國未曾有の國難を救ふ唯一の靈力である。」

と書いてあります。日本國體の精華であります。世の中では、日本國も統帥權は獨立

だと言ふ人がをりますが、それは西洋の學問をしてゐる者の飛んでもない間違ひであります。ドイツに於ては統帥權の獨立があります。ロシアに於ては統帥權の獨立がありました。日本に於ては統帥權の獨立といふことは、非常に不穩當なる言葉であるといは考へるのであります。統帥の大權と政治の大權は、上御一人に於て常に渾然として一つのものになつてゐるのであります。西洋でいへばナポレオンが政治と作戰を一手に握つてをつたと同じ状態否それ以上の状態が、日本に於ては常に行はれてゐるのであります。聖斷一度下らば翕然己を捨てる、我慢して捨てるのでなく喜びと感激とを以て己を捨てて聖斷に心の底から一如し奉ることによつて、日本に於ては常に政治と統帥の一致を見ることが出来るのであります。かういふ意味に於て、戦争の指導といふ見地から萬邦無比の日本の國體は、特に燦然としてその光輝を放つのであります。

今日の大本營は、大本營令にあります通り、戦時または事變に陸海軍を御統率遊

ばすための一つの機関であります。統帥上の機関であります。政治と統帥との最後の統制は必要に當つて御前會議をお開きになり、聖斷によつて決定せられてゐるのであります。これは極めて正しい日本國體の精神に副つてゐる姿であります。然し、今日まではそれでよかつたのでありますけれども、最終戦争を前にして最も激烈なる戦争時代の今日は、私の念願では、かくの如き臨時の御前會議を御開きになつて政戦略を御統制遊ばすといふことから一步更に大躍進をして、戦争指導機關を日本國體に最も合致した姿で常置せらるべきものであると考へるのであります。つまり今日の御前會議のあゝいふ姿を恒久的の制度にすることが、今日最も希望せられるところであり、これこそ神國日本が世界無比の戦争力を現すための大きな問題であると信ずるのであります。

曾て西洋でよく國防會議といふことが議論されたのであります。西洋の君主、主権者の下に國防會議を開きます。國防會議とは、政治關係、統帥關係の首腦者をこ

こに集めて、會議によつて戦争指導の方針を決定し、政戦略の不一致を免れようといふのであつて、多く西洋で考へられ實行されたのであります。ところが、第一次歐洲戦争で持久戦争になると、日本の西洋的の學問をした人は日本に於ても盛んに國防會議の設置を唱道したのであります。今日はさういふことは殆ど聞かないのであります。まだかういふ考へが清算せられてゐない點があると思ひますから念を押しておきますが、これはいけません。これは國體の靈力を發揮する所以ではありません。西洋では本當の純然たる意味の君主がないから、臣下で纏めて、カイゼルとか、キングとかの裁可を受けるのであります。キングやカイゼルは絶對的の力をもつてゐないのでから、言ひ換へれば、カイゼル、キングが決めても、臣下は常に心から悦服はしないのでありますから、聖斷一度下つたならば一億臣民翕然心から己を捨て、それに心から一如し奉ることとは絶對に性格が違ふ。従つて何とかして臣下の責任者で決めてしまはなければならぬといふのが、國防會議であります。西

洋には最も合理的な方法であります。日本にはかやうに臣民共の責任者で國防會議を置いて、困難な政略を無理に何とかして多数決その他の方法で決定して、それを上奏御裁可を仰ぐといふ制度は、斷じて國體の本義に合致しない。我が國に於てはあくまで政戦兩略を御前に於て披瀝して聖斷を仰がなければならぬのであります。

時代は國防國家の時代であり、この國防國家の時代は、我々の戦争觀によれば數十年後の最終戦争まで持續するのであります。國防國家とは、來るべき戦争に對して全國力を擧げて準備し、一旦緩急あつたならばその力を最も合理的に戦争目的に使ふことでもあります。故に今日は大本營は戦時または事變の際にだけ特に設けられるのであります。私が今主張するところの、この日本國體によつて日本國の戦争力を最大限に發揮すべき我が大本營は、平戦兩時を通じて常置せらるべきものと主張するのであります。それは何時までか、最終戦争の終了までであります。

第二章 國防國策

所謂全體主義國家——今後私はこれを統制主義の國家といひます——統制主義の國家とはどういふのかといへば、自由主義の時代に於ては、國策は必ずしも決定してゐないのであります。數箇の意見があつて、その論争のうちにその時に先づ然るべしと思はれる國策を立ててゐるのであります。統制主義の時代に於ては違ひます。國策が先づ確定されることが統制主義の國家の絶対條件であります。難しい議論がなくても、直感的に國民にピンと來るところの國策が確定してゐることです。かういふ見地から見ると、結局統制主義の國家は、國防國家であります。即ち戦争目標によつてのみ今の人類は本當に全國民が同じ氣持になれるらしいのであります。即ち國防國家は、國防を中心にして國策が確立せられてゐなければいけません。

せん。その國策は、現在及び將來に豫想するところの戦争を達観して、これに對し全國力を綜合的に運用することを決定したものでなければならぬ譯であります。

第一節 最終戦争

大東亞戦争が起きますと、中米のあの小さな國々はとにかくとして、百年間合衆國と犬猿の間であつたメキシコが、感情的にも利害の關係からいつても親善關係にあつた日本に反對の立場に立つてゐるのであります。相接近してゐる國々は、民族國家間の感情問題などで、バラ／＼になつてはをられない時代になつて來たのであります。世界は大きな政治的集團になりつゝ、あります。合衆國を中心とする南北アメリカ、ドイツを中心としようとしてゐるヨーロッパ、ロシアを中心とするソヴェエツト、日本が中心になつて結成せられようとする大東亞、かういふ今日までの考へで行けば素晴らしい廣い地域の政治的集團になりますから、今暫くの間は各集團

内の統一完成に忙殺され、集團の間では喧嘩しないでもよささうであります。逆にこの四つの集團が更に大集團にならんとして、世界を擧げて國防國家の建設に邁進してゐるのであります。

私は難しい理窟は分りませんが、この形勢を敬虔な態度で靜かに考へて見ると、人類歴史未曾有の大轉換期に入つて、その變轉期の大戦争が、何となしに無意識のうちには本能的に、人類に豫感せらるゝ結果であると信ずる次第であります。無意識のうちには、最終戦争の近いことを豫感しつゝ、あるのであります。この間、或る私の主張に極めて高度の理解をもつてゐる方から、兵器の進歩が發達の極限に達したならば最終戦争が來るといふが、兵器はどこまでも無限に進歩するのぢやないかとの質問を受けたのであります。私はどこを御覽になつても、私の書いた物に兵器の發達の極限に達した時といふことは書いてないといふことを申しましたところ、向ふも驚き私も驚いたのであります。私の主張は、戦争の形態が發達の極限に達した時

に、戦争はなくなるといふのであります。かういふ見地から戦争の歴史を見れば、兵力はフランス革命によつて古の國民皆兵に還り、兵力がだん／＼増加して来て、今日、つまり第一次歐洲戦争以後は、全健康男子が戦争に参加してゐるのであります。今日、ドイツやソヴェットでは、全人口の一割以上の人間が戦線に動員されてゐるといはれてをります。皆さんの御郷里を頭に考へてみるとよく判ると思ひますが、その全人口、老若男女全部の一割が出るのであります。その次はどうか。この次の戦争は、大きな戦争の變化が來たらば全國民になるだらう。現に飛行機によるところの戦争は、非戦闘員の死傷も少くありません。この次にはいよいよ本格的に全國民が戦火の渦中に入ることとなりませう。

ところが、それだけの戦闘員を如何にして指揮するか。昔はなるべく大集團を一まとめにしたのですが、元來多くの者を一緒にして強制してやると、個々の能力を發揮させることが出来ません。戦争進化景況一覽表で見ると、だん／＼人智が開

けて來るに従つて、戦團の指揮の單位は分解して來たのであります。兵力が増加して來ると、指揮の單位が分解して來た。古代のは大隊であり、近代は中隊、フランス革命以後は小隊、現代は分隊が單位であります。大隊、中隊、小隊、分隊と、極めて整然と分解して來た。かうして見るとこの次の戦闘單位は個人になるだらうと考へられるのであります。即ち戦團に全國民が參加して而も戦團の指揮單位は個人まで分解する。分量は全部で單位が個人まで分解する。これは戦争の形態からいへば發達の極限に達するのであります。

次に戦闘體形は、方陣、横隊散兵、戦闘群であり、これは幾何學的に點、線、面であり、その次は體とならうと想像されます。體以上は、現實の世界に於ては考へられないのであつて、結局この意味に於ても戦争形態が我々の考へる發達の極限に達するのであります。以上のやうな見地から、私共は今やつてゐる持久戦争から次の決戦戦争に入る時には、それが戦争形態の極限に達するので、それで戦争はなく

なるのだ、それが最終戦争であると主張してゐるのであります。

戦争が無くなるといふのは何であるかといへば、國家の對立がなくなる、つまり、世界の統一である八紘一宇實現の第一歩に入ることです。

かくの如き、人類の歴史から見れば最重大事、即ち天皇が世界の天皇にならせ給ふのか、西洋の大統領が世界の指導者になるか、これを決定する、人間の歴史として空前絶後の大變化を來すところの最終戦争なのであります。この最終戦争は今申しました通り、兵器の進歩が極限に達した時來るのではなく、戦争の形態の極限に達した時に到來するのであります。然し、最終戦争の到來は最終戦争を可能ならしめる兵器の進歩が條件であります。戦争形態の發達年代はどん／＼接近して來て、概ねローマ帝國の滅亡から文藝復興までが約一千年、文藝復興からフランス革命までが三百年見當、フランス革命から第一次歐洲戦争までは百二十五年であります。一千年、三百年、百二十五年と、この戦争の變化が非常に短くなつて來て

ゐます。これから推斷してこの次の決戦戦争までは、大體五十年見當ではないかと考へます。従つて第一次歐洲戦争から二十餘年経ちました今日以後、凡そ三十年内外に最終戦争時代に入るのだと私共は觀てゐるのであります。(戦争進化景況一覽表参照)

第二節 昭和維新の方針

この最終戦争觀が、我々東亞聯盟運動同志の最も大きな特徴であります。この最終戦争の判斷から、我々ははつきり今日を以て國家聯合の時代、自由主義から統制時代に移つた時代、最終戦争を準備する準決勝時代と考へるのであります。かういふ見解の下に、昭和維新とは東亞諸民族の全能力を綜合運用してその決勝戦に必勝の態勢を整へることである、これが昭和維新の性格であり、本質であると信じてゐる次第であります。

(一) 東亞聯盟の結成であります。國家聯合時代の今日、速かに準決勝の目的を

達するために、東亞の大同を實現しなければならぬのであります。東亞大同の第一歩として今日我々の目標は東亞聯盟の結成であります。明治維新が日本の維新であつたのに對して、昭和維新は東亞の維新であります。

(一) 聯盟を範圍とする積極且つ革新的建設であります。建設の目標は、第一に國防國家として要求せられつゝある兵備の急速なる完成であります。これは要約して次の三點になるのであります。(『世界最終戦と東亞聯盟』一七二頁)

- (1) 東亞に加はり得る陸上武力に對し十分なる陸軍を準備しなければならぬ。
- (2) 西太平洋に出現し得べき海上武力に對して、十分なる海軍力を保持する。
- (3) 世界第一の精銳なる空軍の建設。

この三ヶ條が、今日急速に整備しなければならぬ兵備であります。

これは少し違ふぢやないかといふ質問があります。最終戦争目標ならば世界第一の空軍の建設だけでいゝぢやないかといふのであります。それにはもう一つ問題

があるのであります。

「東亞全域を單位とする内外一途の革新政策によつて東亞諸民族の有する力を最大限度に發揮させ、以て最終戦に必勝の準備を完了することが、昭和維新の根本方針でなければならぬと吾人は主張するのである。但しその間、常に歐米霸道主義者の實力壓迫を豫期せねばならぬが故に、我等の建設工作は敵前作業の性質を帯びてゐる。」(『世界最終戦と東亞聯盟』一八六頁)

即ち米英の實力壓迫によつて大東亞戦争が起きたのであります。これに對する兵備を敵前作業の要領によつて常に整備してゐなければならぬのであります。

最終戦争に勝つ兵備は、日本から一舉に決戦戦争によつて英國、アメリカ、世界中どこでも屈服出来る——今日では一寸考へられない素晴らしい決戦兵器の現出が根本的の條件であります。最終戦争は三十年内外には来るだらうと言つてゐるのであります。その時の決戦兵器が我々には想像つかないのであつて、直接最終戦争

に必勝の態勢を整へる兵備といつても今は雲を掴むやうなことでありますけれども、恐らく最終戦争の軍隊は空軍的存在であらう。地上とか水上に束縛を受けない通達無碍の空中を飛躍するやうな軍隊であらうと考へてゐるのです。従つて第三項の、世界第一の精銳なる空軍を備へることが、最終戦争に對する最も直接的なる準備であります。勿論、最終戦争に出現すべき空軍は我々が今もつてゐるあゝいふ空軍ではない。我々の想像せられる空軍と違ひ、素晴らしいものでせうけれど、然し、世界第一の空軍を常に使つてゐるといふことが、その最終戦争の決戦軍隊としての空軍をあらゆる國に先んじて作り得る最も重大なる條件であらうと考へるのであります。支那事變や大東亞戦争のやうな、準決勝時代に避けることの出来ない持久戦争に對しては、東亞に加はるべき陸上武力に對抗し得る陸軍、西太平洋に加はつて來る海上武力に對して十分なる海軍、この二つを準備しておく必要があります。即ちソ聯の東亞に用ひる軍隊よりも優勢なる陸軍を持つてをり、アメリカと英國が合して、

或はソヴェエツトの海軍も加はつて西太平洋に出現するそれよりも、斷然優秀なる海軍を作らなければならぬ。そして持久戦争時代のためにも、世界第一の空軍が、大きく物を言ふのであります。今度の大東亞戦争で日本海軍の航空隊が一舉にハツイを潰してくれたことが、どれだけ我々の持久戦争を有利にしたか分らないのであります。日本は東亞の隅に偏在してゐるから、國防的に安全性をもつてゐるやうでありますけれども、特に空軍の進歩した今日は我々はモスコイを空襲出來ないにも拘らず、沿海州からはすぐ空襲せられます。我々はニューヨーク、ワシントンも空襲出來ないのに、向ふはフィリッピンから帝都を空襲出來るといふ状況でありました。日本は國防上利益の半面を有しつゝ、他面不利益の半面をもつてゐます。その不利益の半面を解消するためには、どうしても最も優れたる空軍をもつてゐることが、希望せられるのであります。

かやうな關係で、將來の決戦戦争たる最終戦争に對して準備し、且つそれに至る

までの期間に於て避けることの出来ないと考へられる歐米霸道主義の壓迫を排除すべき持久戦争に對して、以上のやうな兵備を保有してゐなければならぬのであります。兵備だけではありません。その基礎として、我々の時代の建設の目標は、斷じて我々の敵になるべきその集團以上の經濟力を持つといふことを基準にして立てて行くのであります。

「我が國が決戦に於て對抗すべき主なる相手は、歐米物質文明を代表しこれを支配する地位に立つものと考へられるから、その有すべき經濟力は巨大なるものである。この巨大なる經濟を壓倒するに足る大經濟力の建設が、今後に於ける東亞聯盟の經濟建設の目標である。而して前述せる處により明かなる如く、概ね二十年を以て經濟建設計畫の基礎としなければならぬ。同時にこの建設は、準決勝戦時代に於て行はるることあるべき持久戦争克服の目標ともなる。」(世界最終戦と東亞聯盟 一一七頁)

二十年を目標にして、東亞聯盟の生産能力を南北アメリカの生産能力に匹敵する

ものにしよといふのが、端的に我々の計畫の目標であります。それは、やがて最終戦争の敵に優る決戦軍隊を作る基礎條件になる。同時にそれが、我々のいふ準決勝戦時代に於て敵を克服する目標であります。以上の如く我々の希望する兵備と、經濟建設の目標といふこの二つの條件は、緊密なる相互關係になつて來るのであります。研究すれば研究するほど、この二つは完全に歩調を揃へてやつて行くものであります。

(三) かくの如き大規模の建設を可能ならしむるためには、どうしても自由主義體制から統制主義の能力高き體制への大革新が不可避のものになるのであります。

(四) その革新のための指導原理、昭和維新の指導原理は、今まで概ね日本に於て考へられてゐたやうに、先づ理論や機構を作つてから建設にかゝらうといふのぢやない。最終戦争を目標として、今言ふやうな具體案をはつきり掴まへて、その方向に向つて勇猛果敢に建設をやつて行く。その建設途上に體驗によつて、我々の指

導原理を完成して行くのだといふのであります。然しこれから新しく指導原理の全部を作るのぢやない。指導原理の中核として、我々は既に『昭和維新論』と『東亞聯盟建設要綱』を有してゐます。この方針によつて、我々は建設をやつて行く。建設の體驗で、この理論は更に具體化され、具體化する、ことによつて、その次の建設は更に合理化される。かくの如くにして、建設途上に於て指導原理を確立するといふのであります。この指導原理の立案は理論と體驗と渾然一帯相扶け相寄つて發展して行くのであります。

第三節 大東亞戰爭

一、大東亞戰爭の性格

本來からいへば、成し得れば準決勝時代の今日は不戰一勝を得たいのであります。

誰しもさうであります。その代表的なのがスターリンでありました。ヨーロッパ戰爭に於ける英獨をなるべく長く喧嘩させ、而も巧く操つて日米戰爭を起し、東に日米戰爭、西に英獨戰爭を何年も続けさせて、ベトナムはなつて全部弱つた時は、スターリンは赤い旗を振つて一舉に世界革命、彼等の最終戰爭を希望してをつたは違ひないのであります。理窟としては尤もであります。また、ルーズヴェルトのやつたことを見ても分ります。彼はやりさうなことを言ふけれどもなか／＼やらない。出来るならば金だけ英國にやつて、物だけ重慶にやつて、外國全部を戰爭におひやつて、へこたれたらば自分等は新鋭なる力を以て、最後の優勝をしようといふのが、どうもルーズヴェルトの氣持ぢやなかつたかと考へるのであります。ところが十二月八日ハワイをやられて、度膽を抜かれてをるらしいのですが、とにかく希望はさうだつた。我々も最終戰爭準備期間に東亞の大同、東亞聯盟結成のため、平和的に中國を協力せしめることが出来ないで、五年以來、東亞の内亂である支那事變を行

つてゐるのであります。出来るならば支那事變を一日も早く片附けたいと思つてゐる間にとう／＼米英霸道主義の實力壓迫に遭つて、東亞大同のための外患にぶつた譯であります。でありますから、大東亞戦争の本質は、我々から観れば、準決勝時代に於ける東亞の大同、東亞聯盟結成のための戦であります。

今日も、汽車で来る途中に和田常任委員のお話では、「東亞聯盟の連中は、日米戦争に反対してをつたが、やればこの通り巧く行つた。どうだ」と言ふ人があるさうであります。御尤もであります。私共は作戦や外交のことを輿論に訴へてはいけな
いと常々主張してゐましたから、日米戦争反対とは公然言うてはをりませんでしたけれども、戦争學の見解から支那事變解決までは日米戦争の起さないことを内心希望してをりましたのは事實であります。やつつける場合は全力を以てやつつけるのが理想であります。殊に、長期戦争に於て多くの敵を持つことは合理的でありませ
んから、出来るならば支那事變が終つてからと希望してをつた。理論から云へば、

これは正しい。然し、世の中はなか／＼思ふ通りに行かず、戦争が始まつた。而もその劈頭非常な成果を擧げたのであります。この大戦果によつて東亞の解放は一舉に解決せられる可能性を持つて來るのであります。同時に大東亞戦争で英米を徹底的にやつ、ければやつ、けるほど、支那事變の解決は或る點に於て有利になつて來ます。大困難が我々の目の前に横たはつてゐるのであります。これを突破すれば東亞の大同は最も急速に出来るのであります。お天道様が、日本をこの大きな有利な新しい局面に導いて下さつたものと確信し、國民は全力を傾注して速かに大東亞戦争に決定的勝利を收めねばなりません。

私は日本の戦力はどれだけあるか、實際經濟はどうなのか、油はどうなつてゐるのか分りませんから、今、南方に出て行つた方がいゝか悪いか、はつきりした判断は出来ませんでした。南へ行け／＼と盛んに輿論を煽るのに對して私は、痛憤禁じ得なかつたのであります。言ふ人は吞氣かも知れませんが、國民がギャ／＼言

へば言ふほど、敵に準備させる。私の昔の部下や、私の戦友が南方に征く時、ために無益の損害を加へられるだらうと思へば眞に胸の裂ける思ひでありました。幸ひ緒戦の大成功で萬事は杞憂に終りました。然し國民は將來のためよく考へて貰ひたいのであります。

ヒットラーのやり方を見ると、必要なはずばりとやります。昨日まで不倶戴天のスターリンを掴まへて抱きついて、握手をする。世界をあつと言はせた。自國の國民をも仰天させた。それで八千萬ドイツの國民は、先づスターリンと提携出來てやれ〜と思つてゐた。ところが、昨年六月二十二日、國民の輿論なんか一つも考へず、電光石火スターリンのどてツ腹に穴をあける。かういふことが出来る。國民が、外交や作戰にギヤ〜言ふのは、自由主義國家の遺物であります。輿論外交國民外交は、自由主義國家に於て許さるべきものであります。統制主義の國家に於ては斷然許すべきではありません。殊に少くとも作戰についてかれこれ言ふこと

は、日本では國體に反する行爲であります。天皇は、作戰上に就いては國民に言論の自由を許しになつてをられないのであります。また作戰以外の外交も國防國家の時代に於ては極めて重大なる機密を要するもので、政府の最も果敢なる行動によらなければならぬのであります。

中國と戰爭して四年間、國民に若干の疲勞の色さへ見える様子に乗じて、英米は益々乗りかゝつて来る。これに對して國民がギヤ〜言へば言ふほど、向ふは準備します。私としては、非常に苦しい不愉快な半年、一年を暮して參りました。

ところが、皆さんどうでありますか、十二月八日のハワイ海戦に於ける海軍の大成功であります。これは、人間の歴史あつて以來の大成功であります。この頃は新聞や雑誌に盛んに書くから、皆さんも分つて下さると思ふが、十二月八日、高松でこの發表を見て私は思はずなんといふか、どうしても仕様がなくてこの禿頭が泣いてしまつたのであります。こんな切れ味のいゝ武者振りは、人間の歴史あつて以來

なかつたのであります。ハワイは日本から五千四百キロです。毛唐は由來、日本といふ奴は怪しからん奴だと言つてゐます。日露戦争頃は戦は通常宣戦布告をやつて叩くことが、國際的儀禮と思はれた。ところが明治三十七年二月八日の實にあざやかな旅順港の夜襲であります。夜襲して敵の主力を三、四隻やつ、けてから、おもむろに二月十二日宣戦布告です。「日本は怪しからん、必ず出し抜く」多分ソヴィエツトでもアメリカでもかう考へて日本はまたやる時は出し抜いて來るから油断が出來ないといふことで、十分警戒してをつたと思ひます。然し、流石のアメリカも、やればフィリッピンや或はグアム位やるかも知れないが、ハワイは五千四百キロも離れた世界第一流の軍港であります。ジブラルタル等と肩を並べて世界第一流の金城鐵壁の軍港であります。そこにいくらなんでも、日本が不意討ちをかけることは夢にも思つてゐなかつたのであります。さうして、半舷上陸の狀況の時に、徹底的にやられた。戦は本當に勝つのは不意討ちが一番いゝ。世界史上この位の素晴ら

しい不意討ちはなかつた。一擧に太平洋艦隊の主力を叩きつぶした。實に何とも言へない切れ味であります。皆んな喜んでをりますけれども、私は海軍がワシントン條約以來、二十年間どんなに苦しんで來たかを考へます。皆さんのうち若い方は知りませんが、我々は日露戦争に於てなぜ勝つたか。日清戦争直後の三國干涉以來、臥薪嘗膽、十ヶ年の建設によつて小日本が大ロシアをやつ、けたのであります。ワシントン條約以來今日までの二十ヶ年は海軍軍人の、起きてる寝ても忘れることの出來ない、臥薪嘗膽の時代であつたと思ふ。續いて起るロンドン條約、……この勢ひで二十ヶ年錬りに錬つた我が海軍であります。ハワイは不意討ちで勝ちました。然しマレー沖の海戦はどうです。あのシンガポールの要塞の前で世界一といふ英國の主力艦が、日本の空軍からやられました。堂々と仕切つて立上つて小粒な日本に、老大英國が、土俵の真中で見事に背負投げを喰つたのであります。

これは決して大和魂だけぢやありません。二十年間の周密なる計畫、本當に徹底

せる猛訓練、果敢なる斷行と大和魂とが一つになつて、ハワイ海戦、マレー沖海戦の大成功、本當に文字通り空前の大成功を収めたのであります。殊に、先刻申しました通り、我が戦友の南方作戦に就いて心配してをつた私共としては、この海軍の大勝利を眞心を盡くして感謝する次第であります。

今日、ハワイに於けるアメリカの主力艦が嚴存してゐて、おもむろに西太平洋に出て來て御覽なさい。日本海軍の主力もそれに向つて行かなければならぬ。シンガポールの攻撃、マニラの攻撃、あらゆる作戦に大きな困難が伴ふのであります。戦争では、緒戦の勝利は非常に價值があるのであります。この意味に於て、緒戦の戦果は直接南方作戦をして容易にただけでなく、アメリカに英國に震駭的效果を擧げてゐるだらうと思ひます。

私は笑つたのです。日本人が狡くて、謀略が上手だつたら、巧く流言蜚語を飛ばして、「ルーズヴェルト夫人が、一億圓日本から貰つたらしい、ハワイの祕密を全部

知らした」「ノックスは、二千萬圓貰つた」(笑聲) 皆さんは笑ふけれど、こんな時は普通の理性で考へられないことが信じられる。非常に大きな衝動を受けるとさういふことになる。關東大震災に匹敵するところの大衝動を、アメリカの中樞部は受けてをつたのぢやないか。悪戯すれば相當の悪戯が出來たやうな状況であつたと考へます。

それでその海軍の大成功によつて、大東亞戦争の少くとも初期の作戦、日本が南洋の要地を奪取するといふことは極めて順當に運ばれてゐるのであります。然し、この大東亞戦争ではいくら日本の軍隊が勇敢でも、ニューヨーク、ワシントンまでは攻撃が出來ないと思ひます。ロンドンも出來ないのであります。極めて持久戦争になる性格をもつてゐます。この間、仙台の或る同志からの手紙によれば、中國の留學生が仙台の聯盟支部にやつて來て、非常に喜んで感激を述べて、「何とかしてニューヨーク、ロンドンに日本の租界を作つて下さい」(笑聲)と申したさうです。

實に私は愉快に思ひますけれども、仙台支部の連中は、「毛唐はさういふ霸道主義なことをやるが、日本は王道だからやらない」と言ふと、「一遍やつて下さいロンドンの公園に、『犬とイギリス人入るべからず』との制札を立て、下さい」(笑聲)と言ふ。これはなか／＼容易なことではありません。ニューヨーク、ロンドンに日本の租界を作るといふことは、王道でなく霸道でやらうと思つてもなか／＼容易ぢやありません。戦争はどうしても長期の戦争を考へなければならぬ。英國はどうでせうか。あれだけドイツにロンドンを爆撃されて、鼻唄歌ひながら頑張つてゐます。今度の戦争が始まつてからも、英國人の大膽不敵な話は、チヨイ／＼聞いてゐるのであります。またアメリカ人は、これは御承知の通りとても突飛な奴で、どんなことをやるか分らん。私はやはり向ふが日本國土を爆撃する可能性は十分覺悟しなければならぬと思ひます。殊に北の方でも晴れたら我々は十分爆撃を受ける覺悟は、たとひ如何に海軍が巧くやつても持たねばならぬ。

それから日本の國民は少し有頂天になつて、日本が南洋でも取れば日本の物資は直に充足せられるやうに思ひますけれども、これは相當注意しなければならぬのであります。今後、油は少くも作戦には差支へなくなるでせう。それ以外、鐵とか、綿とか、小麥とか、パルプとか、銅、ニッケルといふやうな我々として困つてゐる物資が、南洋によつて解決されることは、戦争中は多く期待すべきではありません。物資缺乏は今後半年、一年経てばもつ／＼酷くなつて來ます。南方の戦をやることは、我々の船も澤山使はなければならぬから、輸送もまた不利益になる。でありますから、戦争はとても長期戦、而も困難を加へて來ると私共今より十分覺悟しておかなければならぬのであります。然し海軍の勇敢なる作戦によつて緒戦の大危険を先づ叩き壊しました。

私は困難の襲來を歓迎します。結局困難が來なければ、今日の日本人は本當の昭和維新をしない。考へて御覽なさい。どこが變つてゐますか。口に非常時と唱へる

が、結局前と同じ生活ぢやありませんか。自由主義から、本當の正しき統制主義、而も日本の國體、國民性を十分發揮した新しい時代の革新は、四年半の支那事變に拘らず急激の發展を見ない。今度こそ、更に徹底せる困難が來て、厭でも應でも大詔に仰せられた億兆一心になり、昭和維新が實現されるものと考へます。

二、國民の責務

大東亞戰爭に對する國民の責務はどうあるべきか。

(一) 先づ統帥のことに絶對嘴を容れてはいけません。これは放任するときつと今に始まつて來ます。例へば、大東亞共榮圏は、濠洲も入るのだ、いや入らないのだ、印度が入るのだ、いや入らないのだ、またはソ聯をどうせよといふ議論が必ず起る。印度を取れ、セーロンを取れ、ニュージランドを取れと盛んにやつて來る。これは國民は絶對に沈黙しなければいけない。「東亞聯盟建設要綱」中の「東亞聯盟

の範圍」の所に書いてありますが、歐米霸道主義の壓迫を排除し得る範圍内に於て、東亞聯盟、つまり東亞の共榮圏を作るのであります。歐米霸道主義の壓迫の排除がどこまで今可能であるかは、我々國民は分らないのであります。これはあらゆる材料を合理的に持つてゐる政府に於て始めて分ります。國民の中にも相當の専門的知識がある人もありますから、若しもさういふ人が如何に作戰すべきかを考へても絶對に言論や文書によつてはいけません。極めて秘密のうちにこれを當局に具申すべきものであります。

(二) 次は外交の問題であります。外交の問題でかれこれ言ふな。例へばソヴェットの問題であります。ドイツが速かにソヴェットを屈服して、これと和解するのが私の希望であります。それがために日本の外交に色々の問題が起きて來ると思ひます。然し、これに對して、國民が言論で訴へるのは適當ぢやありません。

(三) 國內體制に對しては全力を傾注する。今日我々は遺憾ながら、世界に残さ

れたる自由主義國家です。口では全體主義、統制主義と言ひながらも、あらゆる場面に於て最も自由主義的殘滓を残してゐるのは我々日本です。政治的に、社會的に、經濟的に、あらゆる問題からいつて、本當に持久戦争の體制を整へるには、官民一體これに當らなければいけません。國民は特に自分自らを顧みて滅私奉公、億兆一心の實を擧げなければならぬのであります。

(四) 次は我々の主張する内交の問題であります。東亞聯盟の問題であります。特に支那事變の問題であります。支那事變に關する統帥に就いては、我々は絶対にこれこれ言はないのであります。事變解決には國民自らが片つ方の棒を擔がなければならぬと我々は永年主張してゐるのであります。日支問題は外交ぢやない。内交であります。かけひきをさけて誠心を以てやらなければならぬ問題であります。支那事變を一日も早く解決することが、大東亞戦争の非常に大きな役目をもつてゐるのであります。今後物質は當然に缺乏する。この際支那事變を解決して、支那に

使つてゐる消耗を節約し得たならば、戦争の遂行にも國內整備にも極めてよい結果を齎すのであります。

今や全面和平が出来る前に香港を取り、中國百年の恨みを我々が晴らしてやつたのであります。……さうなれば、どれだけの感激を以て中國人が迎へるか。四億の中國人が心から日華の抗争をやめ、我々の最終戦争を承認し提携して歐米霸道主義の勢力に當らうといふ氣持になると思ふ。さうすれば、援蔣ルートを逆に利用して、ビルマ、印度に、中國の軍隊を出せます。私は、中國の軍隊に東亞解放戦の一翼として、働いて貰ひたい。これが、我々の歴史に大きな關係を持ちます。また本當に日華の全面和平が出来たならば、數百萬の南洋の華僑は、我々の協力者になります。南方開發のために華僑の力を十分に用ひなければならぬのであります。

これは既に「東亞聯盟建設要綱」に書いてあるのであります。大東亞戦争の勃發によつて既にこの頁は、近く改訂せらるゝことは勿論であります。

「日華の提携が成立したならば、斷じて困難ではない。數百萬の南洋華僑は我等の第五列となり、滇緬公路は印度攪亂の動脈となるのである。」(世界最終戦と東亞聯盟「一七一頁」)

大東亞戰爭の前に、私共は既にかう言つてをるのであります。即ち大東亞戰爭となつても、支那事變を解決することは絶対ないがしろに出來ない。支那事變の解決は大東亞戰爭勝利の鍵である。而も支那事變の解決は、我々が再三まで論じてゐる通り今日の段階に於て武力戦は盡くすべきほど十分盡くしてをります。今後も益々武力戦はやつてゆくが、更に大切なのは思想戦に對する勝利であります。武力戦の勝利、而もこれを活用して思想戦で勝つたならば、蔣介石は必ず參ると私は主張してをります。殊に、大東亞戰爭でかくの如き輝かしき武勳を立て、その武勳が全く東亞解放のためだといふことを如實に示したならば、重慶は益々早く屈服する可能性を持つて來ます。

かやうな見地から、國民は、思想戦によつて支那事變を解決すべき大きな責務がある。殊に、十年間東亞聯盟の運動に従事して來た我々としては、この際國民の中で最も重大な責任を持たなければならぬ。最も重大な責任を持つ我々がまた最も謙讓で縁の下の力持となり、最大の犠牲を拂つてこの目的達成に努力しなければならぬのであります。我々の犠牲の上に、新しく優れた人々が事變解決の實績を擧げて貰ひたいのであります。

三、大東亞戰爭と最終戰爭

(一) 世の中には、石原は三十年後の最終戰爭といふがもう最終戰爭は始まつたと、大東亞戰爭を最終戰爭の如く考へてをる人が非常に多いのであります。絶対にそんなことはありません。これは「世界最終戰爭論」にはつきり書いてあるのであります。「今日、日本とアメリカは睨み合ひであります。或は戰爭になるかも知れ

ませぬ。(「世界最終戦と東亞聯盟」七二頁)

とう／＼大東亞戦争になりました。これは最終戦争ではありません。最終戦争は徹底したる決戦であるべきに、今度の大東亞戦争は持久戦争であります。最終戦争では断じてあり得ません。

我々は最終戦争は、王道覇道の戦争であると言つてをりますが、この點でも世間に誤解があるやうです。今度「最終戦争」に就いて若干の質問を受けたのを纏めて私が解答を書き、今度近く「最終戦論」に附加へて出版されるらしいのであります。私が、その質問の中に、「三十年後に來る戦争も王道、覇道の戦争ではないだらう、やつぱり經濟問題利害の對立による戦争ぢやないか」といふのがあります。私も御尤もだと思ひます。然し、この最終戦争は最初は主として利害の戦争に始まるが、断じて利害のみの戦争ぢやない、利害の戦争に始まる、然し最終戦争といふ時代の戦争の經過の中には、それが遂に王道、覇道の決勝戦になるのだ、かう私は説明して

あきました。

こゝは、日蓮聖人のお生れになつた小湊でありますから、日蓮聖人の最終戦争に對する豫言を申し上げますと、日蓮聖人もこのやうに思つてをられたらしいのであります。日蓮聖人の主張せられる最終戦争は、最初は損得の戦争である、結局は損得の問題ではなくなつて、世の中に頼るべきものはたゞ正法だけだといふことを悟るやうになるといはれてゐる。即ち徹底せる惨苦によつて始めて悟りを開いて、人類一同が正法に歸服するのだといふのです。私は數十年後の最終戦争も最初は主として損得による戦争であるが、然しこの時代は既に思想が、人間の争ひの最後の問題になり得るまでに文明が發達して來てをり、その戦争の發展過程に於て、結局王道、覇道の決勝戦になるのだと考へるのであります。

(二) 「本當に英國の所謂無敵海軍を以て確保出来るのはせいぜいアフリカの植民地だけあります。大英帝國はもうベルギー、オランダ並に歴史的惰性と外交的

駭引に依つて、自分の領土を保持して居る所の老獪極まる古狸でございます。二十世紀の前半は英帝國崩壊史だらう云々」(世界最終戦と東亞聯盟一四二頁)

結局大東亞戦争の本質は、英帝國の世界制覇に最後の止めをさすことにあります。それによつて、東亞は完全に解放せられ、東亞聯盟が結成せられるのであります。

(三) 最終戦争と大東亞戦争の関係はどうか。大東亞戦争は、最終戦争に對しては大きな準備であります。即ち、東亞を解放して東亞聯盟、東亞大同の基礎を確立すること、それから最終戦争のために作戦の根據地と必要なる資源を東亞聯盟に十分に與へるのであります。同時に、大東亞戦争によつて自由主義から統制主義への革新が、非常に拍車をかけられる譯であります。さらば次の最終戦争の豫見は大東亞戦争に關係ないかといふと大いにありと私共は主張するのであります。といふのは、あまり大きな聲ぢや言ひたくないが、過去四年半のことを考へて御覽なさい。皇軍が南京を取る、旗行列だ、徐州を取る、旗行列だ、そら漢口だ、そら廣東だと

國民は大いに感激したのであります。先日私の郷里の湯の濱といふ温泉場で座談會をやつて、その夜同志の宿屋へ泊つたが、宿屋の御主人の話によれば、十二月八日以来飲み客はなくなつてしまつたさうであります。悲しいやら、嬉しいやら、甘辛煎餅のやうな氣持だ。然し、その御主人の言ふところによれば、「支那事變が始まつた時も同じであつたが、若干月経つと段々客が殖えて、とう／＼この戦争前には例年以上に繁昌する傾向になつた。今度は本物だからあゝはならないでせう」と自分の商賣が淋れることを喜んでゐる。流石に東亞聯盟の同志であります。然し、日本の陸海軍がどこまでか知りませんが、或る地域まで行けば作戦は一段落告げて、それから華々しい戦況やニュースはあまり入つて來ないのであります。逆に、日本が爆撃された、アメリカの潜水艦によつて日本の船がやられたといふ、丁度日露戦争の時上村艦隊がとも朝鮮海峡で苦勞したやうなことが起るかも知れません。どうです、當時上村大將の屋敷へ行つて石を投げ、日本人さへあつたのであります。

私は今日國民は非常に昂奮してをります。が作戦が一段落を告げると、また國民の緊張をそこなふ惧れがあるのぢやないかと心配するのであります。それがどうせうか。我々最終戦争の信者にとつては數十年後に來るところの大戦争によつて、天子様が世界の天子様になられるか、或はルーズヴェルトあたりの後繼者が世界の指導者になるかが決定されるのです。この未曾有の時代に生れた感激を自覺すれば、どんなに長期戦になつてもだらけることは絶対にあり得ないのであります。少くとも過去數年の間、東亞聯盟運動者は世の中がだらけてゐる中で一番緊張してゐた何よりもいゝ實例を、私は澤山持つてをります。最終戦争に對する我々の信念は、どんな長期になつても我々に不斷の感激を持續させてくれるのであります。

私は數ヶ月前大阪の實業家諸君の座談會に引き出されました。私は經濟は全然分らないが、感じられることは、この方々は生産力の擴充を結構と思ひつゝ、支那事變が終つたならばまた不景氣が來るのぢやないかと考へて、絶えず不安をもつてを

るやうであります。恐らく今度の大東亞戦争に於ては今まで以上拍車をかけた生産能力の擴充が要求されるでせうが、内容や設備をあまり大きくしても、戦が案外巧く行つて片づいてしまふと後で困るのではないかといふ氣持が相當あるのぢやないかと思ひます。その時も私は「斷じてそんな御心配は要りません。最終戦争が終るまで絶対不景氣なんかありません。幾ら作つても大丈夫」と申しましたら、大阪の偉い方々が聲を上げて笑つたが、一つはまあそんならば安心といふ氣持も相當あつたやうであります。(笑聲)

最終戦争まで二十年を目標にして、我々は南北アメリカ以上の生産力を持つて行くのだといふ感激があつたならば、私は利害を離れることの出來ない經濟界の人々も、心から全身心をぶち込んで國家の要求する建設に邁進せられると思ふのであります。

要するに、大東亞戦争は最終戦争を準備するものであつて、最終戦争への達觀は

大東亞戰爭に勝利を得せしむるところの要道であると結論致しませぬ。

第三章 國防國家の政治

國防國家に於ける政治の眼目は、國防國策の命ずるところに従ひ、人の力と物の力、即ち國力の全能力を遺憾なく發揮することでありませぬ。それがためには、どうしても國防國家の時代として、政治組織も新しい合理的の革新が要求せられてゐる。かういふ見地から、この第三章では先づ政治の組織に就いて意見を述べ、次いで人及び物（生産）に就いてのお話をして見たいと思ひませぬ。人と物とに分けて研究することは、一面非常に不合理であつて、この兩者は全く相互關係の立場にありますけれども、便宜上今はかういふ方式で話して見ませぬ。

第一節 政治組織

一、指導者原理

こゝで指導者原理の理論的説明をするものではありません。さういふことは私には難しくて分りませぬが、要するに統制主義時代に於ては、特に指導者原理が必要とされるのであります。「昭和維新論」には、指導者を次のやうに定義してをります。「指導者とは、方針を確立し、常に具體案を生み、この案を提げて多數を悦服・指導する人である。」（『世界最終戦と東亞聯盟』一二五頁）

指導者は専制者ではありません。民衆の心からの悦服の下に指導に當るのであります。世の中では多くヒットラーといへば、暴君のやうに何でも専斷すると考へてをります。この間、石川準十郎氏の「マイン・キャンプの研究」といふ本を貰つて、

私は非常に興味深く讀んだのであります。ヒットラーが如何に自由に憧れてゐる人がかこれによつて窺はれ、實に強く私は心を打たれたのであります。ヒットラーの父君は百姓から出て役人になつた人で、役人を非常に偉いと思ひ、自分の最愛の子供をどうしても役人にしようとしたが、親孝行のヒットラーも斷じてそれは承知しない、これには父君も大いに惱んだらしく、この父君の腦溢血で亡くなつたのは、ヒットラーの頑強なる反對が一つの原因をなしてゐたのではないかとさへいはれてゐるらしいのであります。ヒットラーの言ひ分は、あんな自由のない杓子定規にやられる役人は絶對厭だといふのであります。

今日、ヒットラーが全權を振るつてドイツ國を指導してゐるのは、彼が八千萬ドイツ民族の心からなる支持の上に立つてゐるからであります。統制と稱し、権力によつて、何でも抑へつけて行かうといふのは、統制ではなくて専制です。ヒットラー流に行けば、最高指導者は國民全部の推舉によるべきであつて、この國民から指

導を委託せられることによつて、最高指導者は全責任を以て政治を行ふのであります。かくの如く全國民から絶對支持せらるゝ最高指導者を得ることは極めて困難な問題であります。従つて統制主義の時代に於ては、どこの國でもこの點大きな悩みをもつてをります。ヒットラーに若しものことがあつたらどうするか、スターリンが死んだらどうなるかといふ不安を常にもつてゐる。これに對し日本は全く獨特なる世界唯一絶對の上御一人の統治の下に立つてゐる國であります。この意味に於て日本は、その統制主義の時代にあつては特に最も恵まれた立場にあります。

「國體の面目を完全に發揮したならば、皇國が全體主義の時代に於て、如何なる國家も企及し得ざる偉大なる國力を現はし得ることは、斷じて疑ふことが出来ない」
〔世界最終戰と東亞聯盟一九七頁〕

日本でも統制主義の時代に力を發揮するためには、天皇の御下に最高幹部がなければいけないのであります。然しその最高幹部は一人に限りません。勿論一人であ

れば非常に結構ですが、一人でなくても数名でもよいのであります。國策の根本方針に就いては常に大御心を仰ぎ奉るべきことは申すまでもありませんが、また若しもこの數名の最高幹部間に意見の不一致を生じた時には、聖斷を仰ぎ心よりこれを信受し、眞實一致協力、無益の摩擦を避けて一意邁進するといふのが私共の信念であります。

日本の國體の靈力を發揮し、統制主義の今日、素晴らしい政治が出来るか否かといふことは實にこの一點に懸つてゐる譯であります。上御一人の御信任を辱うし下萬民の民意を綜合指導するところの最高幹部の組織が出来、この最高幹部が全責任を以て指導者網を張つて行くのであります。

これと同時にその指導者に選ばれる人々は、文字通り滅私奉公、個人々々の利益は忘れて全體の爲に一身を犠牲にするものであり、更にこれと共に力量そのものも斷然優れてゐなければいけません。故に今日昭和維新の革新時代に於ては、在來の

社會的慣習に捉はれない眞に實力ある指導者を發見して、それを訓練して行くことが新しい政治の根本問題であります。

我々も東亞聯盟運動に於て、常にこれを言つてをります。實力ある指導者を組織的に發見して、その發見したものを訓練して、組織の中核にするといふ方針を堅持することが、東亞聯盟運動の發展を決定する根本であります。

大化の改新は、姓制度の改革でありました。これまでは本人の力量の如何に拘らず、血統によつて職責を決められてをつたのを改めて、力量本位の飛躍的な人材登庸の道を開いたのが、大化の改新であります。その次の大きな社會革新は明治維新であります。明治維新は申すまでもなく武士階級の廢止であります。かゝる見地から昭和維新は何であるかといへば、學閥の打倒であります。明治維新によつて世界に稀なる四民平等が實現されたのであります。けれど、今日、如何に實力があつても學校を出てゐなければ上に行けないといふ現状は、斷じて革新しなければいけ

ない。學校制度に就いてはあとで述べますが、明治御維新以來の學校制度の弊害が今日累積して、學校を出た、高等文官試験を通つたといふことによつて人間の値踏みをされてゐる。この間違つたことを根本的にこの際改めなければならぬのであります。ヒットラーは正規の教育としては田舎の中學を中途まで行つただけであります。スターリンやムツソリニも大した學校に入つてゐなかつたと思ひます。蔣介石は日本の士官學校を卒業した位であります。學問は固より非常に大切です。然し學歴によつて値打をさめるのは大間違ひであります。學生諸君は特にこの點考へて戴かなければならぬのであります。志ある人々にとつては毎日社會に働いてゆくことが即ち學問であります。ヒットラーをして今日あらしめたのは、自由労働者としてとても苦勞したあのウィーンの生活であります。見るもの聞くもの悉くヒットラーには學問であります。ヒットラーの今日の活動の基礎は、この労働者の體驗とその間に於ける彼の勉強であります。殊に、「マイン・キャンプ」を讀んで感激に堪へ

ないのは、ヒットラーの知識の大半は、毎日の新聞、我々がともすれば炬燵にあつて寝轉んで見る新聞を熱讀することによつて、得られたらしいのであります。

かつて私が會津若松の聯隊に勤務してゐた頃、こんな話を聞きました。明治維新の際に於ける會津城の開城はかなり良く行はれたのであります。官軍でもあれだけ抵抗した會津城を受取るのだからへまやつちやいかんといふので、城受取りの使者の人選につき色々議論があつた所、桐野利秋がおいどんがやると出て來た。桐野は鹿兒島の所謂紙漉き士といふ極く低い武士階級の出身であり、正式の學問をした人ではありません。物凄い元氣だが學問がない。城受取りには非常に難しい作法があるので、桐野の申出には板垣退助もよほど困つたらしい。おいどんがやると言つたのを、お前ぢや駄目だといへば何をするか判らないので、仕様がなく桐野をやつたところがある。と會津城を巧く受取つたのであります。そこで皆が「桐野君、實に巧くやつた、いつどこで習つたか」と聞くと「いや、江戸にゐる時、寄席に行つ

たところが、赤穂城受取りの講談があつた。あれを思ひ出してその通りやつただけだ(笑聲)と言つた。今のインチキ學校より皆様が社會に於て眞面目に學問したならば、また讀物も心掛け次第では講談を一冊讀んでも、立派に生きた學問になるのであります。私共はこの學問の打倒が、どうしても昭和維新の大きな眼目と考へるのであります。

二、統制批判

文藝復興によつて武士の時代が過ぎ、新しい戰術が生れて來ました。それが發達して横隊戰術になつたのであります。横隊戰術時代の軍制は傭兵であります。元來戰は生命を的にするのであるから、商賣でやることは無理であります。傭兵制度よそこに大きな間違ひがある。この無理があるので、この時代の横隊戰術の指導精神は專制であります。即ち頭から一切形式的に抑へて、嚴格なる盲從的服従を強制し

て馬の如くに人を使つて行かうといふのがこの時代の戰爭の指導精神であります。

ところが、フランス革命によつて、これが一變いたしました。世の中は不思議なもので、傭兵時代には傭兵が一番いゝ制度と思つてをつたのです。長い間、専門に軍事的訓練ばかり受けて横隊の行進などを巧くやれた傭兵が、戰爭には一番いゝものと思つてをつた。ところがフランス革命になつて、フランスは貧乏なので澤山の傭兵を養ふことが出來ない。致し方がなく世の中の反對を押切り、またやる人も必ずしもいゝ方法ぢやないと思ひながら、古の國民皆兵に還つたのであります。これは動員令一本で多くの兵隊を集めるので、横隊戰術のやうな平素の訓練を必要とする戰術は不可能です。致し方がなく、當時若干行はれてをつた散兵を、戰術の中心に持つて來たのであります。散兵戰術と横隊戰術の大きな區別は、戰鬪の指導精神が專制に對して自由となつたことであります。フランス革命前の鐵砲もフランス革命で使つた鐵砲も同じ鐵砲であります。散兵になつたことが自由主義の戰術に遷

つたことを意味するのであります。フランス革命によつて自由民権の思想に憧れたフランス青年の爲に、これは極めて合理的の戦術となつたのであります。

ところが第一次歐洲戦争は、既に兵器が非常に進歩したので散兵戦術によつて各兵の自由に委せて戦をやつては、甚だしい危険と混亂を伴ふところより、とうとう今日自然の中に戦闘群戦術に變つたのであります。戦闘群戦術は統制の戦術であります。即ち指揮官が最も明確なる方針を決定して、その方針に従つて各隊を的確に運用するのであります。

このやうに考へますと、要するに専制、自由、統制はそれ／＼時代の大勢によるのであります。勿論民族によつて民族性が違ふ。例へばロシア人は非常に専制向きの國民らしいのであります。ロシア兵は歩哨に立つて交代兵が來なかつたならば三日でも四日でも黙つて立つてゐるだらう。腹が減つて死んでも立つてゐるではなからうか。このやうにロシア人は本來専制向きの民族であります。ソヴェエツトの統

制の方式は我々から見れば二十數年の經驗を経た今日なほ甚だしい専制の方式であります。ロシア人にはあれが却つていゝらしいのです。これに對し自由主義は、申すまでもなくアングロサクソン民族の最も得意とするところであります。自由主義の時代には英國が世界的覇權を握つたといふことは、尤もなことであります。ところが統制はどうかといふと、西洋では何といつてもドイツ人が極めて統制向きの民族であります。

このやうに國民性の特徴はあるけれども、何れにせよ、人類の發展が、専制の時代から自由主義の時代になり、更に統制主義の時代に移つたと云ふことは、苟も優秀なる能力をもつた諸民族に共通の時代的勢ひであると考えるのであります。

私は従來自由主義に對して、全體主義といふ言葉を、使つてをつたのであります。全體主義といふ言葉は、色々違つた意味に使はれてをるやうであります。私は橋先生「國民組織論」を、「東亞聯盟」十二月號で拜見して、やつぱりいゝ、加減の言葉

は使つていかんと思ひ、從來、軍事的には統制と云ひ、政治的に使ふ時は、全體主義と云つてをりましたけれど、今日以後は政治的にも矢張り統制主義と呼ぶ考へであります。全體主義は、適當でないやうであります。橘先生の言はれるには、私の誤解があるかも知れませんが、西洋人の社會は、集合社會、これに對し東洋の社會は、共同社會だ。つまり、西洋人の個人主義に對して、東洋は全體主義的であると解釋してをられるのであります。全體主義を個人主義に對立させるのは非常に合理的でありますから、私は今日からこの意味に使つて見ようと思ふのであります。西洋人は個人主義であつて霸道的であります。これに對して、橘先生の言ふ共同社會の傾向の強い我々東亞諸民族は全體主義であつて、王道的であります。中國人は家族主義でありますが、全體主義の中で、日本は國家の力を最高度に發揮出来る全體主義の極致である國體主義であると言へると思ひます。

ドイツが全體主義と言つてゐるのは、若干そこに意味もあると考へるのであります。

す。ヒットラーは「マイン・キャンプ」に於てアリヤン民族の純潔を力説してゐるが、これには東洋人の血が相當入つてゐる。西ヨーロッパと旅行した日本人が英國、フランスあたりで人に交際つてから、ドイツに入つて下宿すると、その家族的なのに驚くのであります。更にドイツからロシアに入るとまるで様子が違ふ。西洋人が一緒に飲み食ひしても勘定は自分自身で拂ふのが建前でありますが、ロシアへ來ると、お互に財布を出して俺が拂ふと食堂で争つてゐる。これは日本人には常に見ます。自分は正直なところ拂ひたくない癖に、友達が拂はうとすると、「さや、さ〜」(笑聲)。これは日本人の特徴ですが、ロシア人にも見られる。モスコイでは私が着物を着て街を歩いても、ロシア人は見向きもしない。東洋人が澤山をるからですが、ロシア人自體あのジンギスカンの子孫の種が澤山入つてゐる。そのロシア人の血が相當ドイツにも混入してゐる。東洋人の血がドイツ邊まで相當行つてをるのであります。徹底せるアングロサクソンの個人主義に對して、ドイツ人は全體主義的の傾

向をもつてゐるといふことは、どうしても私共第三者から見て否定出来ないのではないかと思ふのであります。

今日自由主義から統制主義に變つて來たのは、世界の共通的傾向であります。なぜかういふ風に變つて來たかといへば、結局今日に於ては、統制主義は自由主義に對して比較することが出来ない能力を持つてゐるからであります。私は理窟は知らない。目の前で見てゐるドイツは二十餘年前にヴェルサイユ條約で、完全に武装解除された。陸軍は十箇師團、海軍は十萬トン、潜水艦は持つてはいかん。軍艦の大きさは一萬トン以上は許されない。軍用飛行機は絶対いかん。戦車も持つことが出来ない。かういふ軍隊だけでは今日に於ては、完全なる武装解除の状態といへるのであります。それがどうです。ヒットラーが天下を取つてから本年で九年目ですが、ヒットラーがヴェルサイユ條約軍事條項廢棄を公式宣言して、斷乎兵備をやつてから第二次歐洲戦争勃發まで僅か四年であります。そのたつた四年の間に、ドイツは

十箇師團から二、三百箇師團に作り上げてしまつたのであります。空軍は世界一、また機械化兵團も老國フランスなんか到底及ばない装備を持つてをつたのであります。この兵備の差が今度の戦争でドイツが斷然フランスその他をやつ、けた最も有力な原因であります。ドイツの指揮官が偉いとか、ドイツ魂が強いとかいふ問題以上の問題は、實にその統制主義によつてドイツの獲得した驚くべき綜合的力であります。このやうなことは然し、何も西ヨーロッパのことを引例するまでもなく、我々が身を以て體驗したことであります。

滿洲事變當時に於ては北滿に於けるソ聯と日本との戦争力は略、匹敵してをつたのであります。従つてロシアは多くの日本のインテリの豫想に反して極めておとなしい態度をとり、不可侵條約の締結を懇願して日本に對し全く他意ないことを極力釋明してをつたのであります。ところがその後、日本は滿洲は我々の生命線であるとスローガンばかり叫んでゐましたが、支那事變が始まるまで六年間の滿洲におけ

る日本の兵備増強は、遺憾ながら極めて微々たるものでありました。これに反してロシアは極東兵備を黙々と音無しの構へで一つの宣傳もなくやつたのであります。昭和十年には極東に於ける日本とロシアの戦争力はとても凄しい差を起してゐたのであります。その頃陸軍省から出したパンフレットにもロシアの兵備が出てゐましたが、その後二年間にロシアは黙つて更に猛烈に兵備を増強し、昭和十年に比較して、支那事變の起きた昭和十二年の夏には北滿に於ける彼我の兵備の差は甚だしくなつてをつた。外國人の書いたものによると、その比が一對五、一對十と言つてをりませす。如何に自由主義國家と統制主義國家とが能率が違ふかといふことを、私共身を以て體驗したのであります。この事が、支那事變で蔣介石が徹底的抵抗を決心した最大原因であると、私共は睨んでゐるのであります。

能率は良いが、然し統制には一面必ずこれに伴ふ大きな弊害があります。一つは過度に緊張するためくたびれが來ることであり、他は安全瓣を缺いてゐること

あります。お隣のツヴァイエットでは數年に一遍必ず黨員の肅正をやります。大臣大將などの高官その政黨の幹部等數十人、數百千人の首を本當にチョン切る。また統制には最も適した性格を持つてゐるドイツに於て、ヒットラーの如き指導者を以てしても、ヒットラーは自分の最愛の突撃隊長を銃殺しなければならなかつたし、また先だつてはヘスの英國への逃走が起きたのであります。能率は非常に良いが、安全性を缺いてゐるのであります。

かくの如き危険性をもつてゐるに拘らず、世界を擧げて逐次統制主義になつて來てゐるのは、これは私は人類が無意識の間に最終戦争が目前に來てゐることを本能的に感知しつゝある結果であらうと考へるのであります。私共は統制主義は合宿主義だと言つてをります。合宿はとても能率を高めますけれども、長い期間繼續しては却つていけないのであります。私共は今日人類が最終戦争まで數十年に互る合宿生活に入つてをるものと觀てゐるのであります。

さらば統制とは、どういふことか。統制は専制と自由との各の特長を採つて、それを綜合開顯した指導精神であると考へます。自由放任をしてゐては、本當に自由を求めるとは出来なくなつたから、混雜を避け、無益の重複を整理するために、必要最小限度の強制を加へるといふのが、その主義であります。即ち、統制は自由を束縛するのではない、自由を合理的に働かせるために必要已むを得ざる専制を加へるのであります。戦でいつてもさうであります。今日、統制の戦術をやつてをりますが、各部隊や各兵の獨斷自由は、自由主義戦術時代よりも素晴らしく擴大されてゐるのであります。私共の若い時には戦術は將校だけやつてをりました。ところが第一次歐洲戦争以後は、既に下士官に戦術を教へました。私は今日では兵にも戦術を教へなければならぬと主張してゐるのであります。

今日の戦は再び元龜、天正の戦に還つて來たのであります。第一次歐洲戦争までは、散兵戦術のため大きな目標を呈するから、敵前三、四百米位のところで停屯し

てなか／＼それ以上近く敵に迫ることが出来なかつた。ですから日露戦争を見ると、本當に白刃で敵に突つ込んだのは、弓張嶺の夜襲その他數回の夜襲を除き、白晝やつたのは、爾靈山と橋大隊長の首山堡の突撃等の外には滅多になかつたのであります。多くの場合白兵戦とはならず、弾丸だけで勝負がついたのであります。然るに支那事變でも張鼓峰でもノモンハンでも、戦争は連日斬り合ひです。白兵をとつても使つてをります。ドイツでは三遍敵陣に突撃したものは突撃章を貰ふことになつてゐる。今日は元龜、天正の一騎打ちの恰好になつて來てゐるのであります。かうなりました原因は、戦鬪群の戦法で、僅かの兵隊が分散して戦つてゐるから、地形を利用して巧みに前進すれば突然敵の眼前に現れることとなり、所在に白兵戦が演ぜられるのです。

過去數年は遺憾ながら日本陸軍の兵備は、ロシアの兵備には追いつかない状況でありました。戦車も、飛行機も、大砲も足りない。國家としてはかういふものを足

りない状態においては絶対にいかなのであります。断じてロシア以上の戦車、飛行機、大砲を持つことが必要であります。これは軍政の任務であります。我々戦に當る者は、然しどんな装備でも必ず勝たなければならぬ。勝つためには我々の特長を求めてそれを十二分に活用せねばならぬ。これには二つある。一つは各兵が獨斷活動する戦術能力を持つてをること、もう一つは、白兵戦に對する自信があること、この二つが、日本人の特長であります。この二つを利用して鈍重な敵をやつ、ける獨特の戦術を案出せねばならぬ。戦鬪群の戦法はこれを可能にします。兵隊が三四十米まで全く匍匐して、敵に見られないやうにしてやつて行く。分隊長が號令をかけて指揮をしたら敵に見つかる。全部以心傳心でやらなければならぬ。即ち兵隊一人一人が優れたる戦術的判断を持たなければいけないのであります。散兵戦術の時代までは殆ど平等に兵隊は戦をやりますから、殊勳の手柄を立てるやうなことは、少くとも或る隊長以上でなければ滅多になかつたのであります。かうなると兵隊

一人が卓抜の功績を擧げる機會に恵まるのであります。即ち統制主義の戦術の時代に於ては、各隊の、各兵の獨斷專行の範圍は自由主義時代の戦術に比して數十倍に擴大して來たのであります。

フランス革命前後から各國とも徹底的に自由主義を鼓吹されて來てをつただけ、今日の我々のやうな年配の者には特にこの影響が強いのでありますから、今日急速に統制主義に飛躍するには、行き過ぎた自由を抑へるために專制部面が非常に強く作用せられるのは眞に已むを得ぬ次第であります。然しこれは統制の目的ぢやない。なるべく早く意識的に國民の統制を合理化して、專制の部面を必要の限度に後退せしめるやうに努力して行かなければならぬのであります。

このやうに戦鬪の指導精神が專制、自由、統制と變遷してまゐりましたが、最終戦争の時は何だとはよく聞かれるのであります。「戦争進化景況一覽表」にはこのところを白くあげてあります。最終戦争の指導精神は何であらうか。私、答へて曰

く、知らない。知らないから空白にしたのであります。戦闘隊形も同じです。戦闘群の次は何であらう。私は分らないから空白にしてあるのです。點、線、面、體、或は大隊、中隊、小隊、分隊、個人、及び兵數が逐次増加して全男子となり、次は全國民だらうといふことは、直線的なる方向に發達してをるから、かく私共は豫想したのです。けれども横隊、散兵、戦闘群からその次は何であらうといふことは私には判断出來ない。また専制、自由、統制の次は何であらうかといふことは判断出來ない。殊に最終戦争時代は人類歴史の最大關節であります。今までの如く地上・水上の戦のやうな緩漫のものと違つて空中に飛躍する最終戦争は、その變化がとても激しいので、私はこれから先を想像出來ないのでありますけれども、無理に何だらうと聞かれたならば、この時代の戦闘の指導精神は、今日までの自由と今日の統制とを綜合したものはなからうかと想像されなことはありません。最終戦争の時代になれば、我々の自由はずつと今日より解放せられます。今日はいろく官憲の力

で指導しようといふ時代であります。新しい指導精神が眞に徹底すると共に再び自由の範圍が合理的に擴大せられ、更に高き能力を發揮する時代になるのであります。

私の「戦争史大観」の表には、義務より更に徹底してこの次の最終戦争は恐らく義勇に進むのではないかと豫測してあります。アメリカなどの兵隊を義勇兵と譯してありますがあれは傭兵です、フランス革命前の古い時代の傭兵であります。義勇といふのは、自他共に許すところの最も能力ある人が義に勇んで戦闘員になることでもあります。最終戦争では全國民が戦に入る。老若男女全部、戦闘員、非戦闘員の區別なく、戦に参加する。然し積極的に敵を攻撃する兵力は、今日の地上の戦闘のやうに澤山の兵力ではないと想像される點があるのであります。即ち最終戦争に於ける攻撃部隊は少數の最も優れたる人々により編成せられるのであつて、義勇に進んで行くのではないかと考へるのであります。最終戦争の戦闘指導精神は、今日より遙

かに多くの自由活動を許す時代になつてをるだらうと思ふのであります。更に最終戦争後八紘一字に入れば、人間の自由は非常に廣範圍に尊重せらるる時代になつて來ることは、言ふまでもありません。自由に憧れるのは人類共通の本能であります。八紘一字になれば、その本能がずっと満足せしめられる時代になるだらうと信ずるのであります。

三、人體との比較

かやうな統制時代の政治組織が、どうなるかといふ問題であります。これには國家は一つの有機體ですから、人間の身體と比較するのが比較的好くはないかと思ひます。

大本營は腦髓であります。黨部が神経で、官憲が骨であり、各種の自治體が血肉である、大本營を中心にして全國力を有機的に運用することが、今日以後の政治組

織でなければなりません。

(1) 大本營

大本營の問題は、我々の最も強く主張するところの國體政治確立の根本問題であります。第一章に詳しく申しましたから、こゝでは省略します。

(2) 政黨

この頃は世人は口を開けば官僚の悪口を言ふ。官僚のみではなく軍が横暴とも蔭で言うてをるらしいのであります。然し今から十年ほど前まではどうだつたかといふと、自由主義政黨の横暴が盛んに叫ばれてゐたのであります。その自由主義政黨の弊にこりて、今日なほ政黨は要らない、日本に於ては黨なんか存在すべきでないといふ頻りに唱道せられます。然し權力を持つた者がその權力を濫用する状況に至ると、その權力を失ふ時であります。政黨が力を失つて、今官僚が政治に於て巾を利かしてゐる時既に官僚横暴の聲を聞くのであります。官僚の深刻な反省が必要であります。

す。このやうな事情を靜かに考へると、自由主義政黨が悪かつたことから、政黨の存在が何時もいけないんだといふことを簡単に論斷することは、絶対に誤りと言はなければならぬ。難しい理窟は私は分りませんが、現實に就いて考へて参ります。

「昭和維新の大事業に一定の方向を與へて、これを促進するために、政治組織、即ち黨部の結成を第一の仕事とせねばならぬ。國民が強力な政治的結成をなし得なければ、我が國體の力を以てしても、政治の安定を得難きことは、數年來の經驗によつて國民の痛感せるところである。」(『世界最終戰と東亞聯盟』一一二頁)

日本國體は萬邦無比のものでありますけれども、既に歴史の表明してをります通り、この萬邦無比の國體を以てしても、國民が正しき姿でない時は、國威の振はなことが起きて來るのであります。滿洲事變以來自由主義政黨が亡びて、而もこれに代るべき新しい政治組織が結成されてゐない今日、どうしてもまだ本當の強力なる政治が行はれかねてゐるといふことは、國民がまざ／＼見て來た事實であり

ます。どうしても國民が自らを政治的に組織して 陛下の御導きを仰ぎ得る状態になつてゐなければ、なほ且つ完全に國力を發揮出來ないのであります。西洋で考へて見ても分ります。如何にヒットラーが偉からうが、彼がナチスを組織してゐなかつたならば今日のドイツは到底あり得ません。

統制主義時代の政黨は當然一國一黨でなければならぬ。自由主義時代に於ては國策の根本に關し數箇の主張が對立して相争ひ、従つて數黨對立の状態になるのが寧ろ當然であります。統制時代に於ては國策の大半が略々確立されてゐるのでありますから、國策の根本に關し、政黨相互が對立することはもはやあり得ないのであつて、結局政黨は一國一黨的形態をとるやうになるのであります。

ところが日本に於ては一國一黨は非國體的であると云ふ議論をよく聞くのであります。が私は斷じてさうではないと思ひます。我々が國體に對する誠心がなければ、自由主義時代即ち數黨對立に於ても非國體的になります。また官僚政治の時代に於

ても、非國體的になりませぬ。一國一黨だけが非國體的であるといふことは、自由主義時代の思考を清算し得ない邪見であります。勿論、日本に於ける一國一黨はあくまで日本的でなければいけません。言ひ換へれば、日本國體に合致し、而も日本の國民性にも適つてゐるものでなければいけないのであります。

第一に、日本の國體に合致することでありませぬ。政黨政治は何と申しても西洋からの輸入であります。由來日本民族は特に萬機公論に決する、つまり會議を喜ぶ民族性を強くもつてをりますけれども、明治以來急速に西洋の制度を真似した點があり、私は自由主義政黨の時代はまだ本當に日本的な政黨になつてゐなかつたと確信してをります。これに對し自由主義政黨の方々は、自由主義政黨が非國體的であつたといふことに就き抗議を申込むのであります。私はあくまで非國體的であつたと斷言いたします。外國のものを真似したのであつて、決して自分のものになりさつてゐない。西洋に於ては第一黨が政府黨であり、君主と政府黨が一つになつて、

在野黨と戦ふ、かういふ姿であります。日本でも自由主義政黨時代は外見上これに類似の傾向があつたことは否定出来ませぬ。ところが本來日本ではこのやうな事は許さるべきではありません。天子様は一黨一派に偏してをらるべき御存在では絶対にありません。非常に大きな一黨でも極めて小さな第三黨でも、陛下から御覽になれば一視同仁であらせられると拜察するのであります。従つて苟も政黨の首腦たる者は、常に陛下の重臣であるべきものと私は考へるのであります。陛下の重臣と申すのは、必ずしも政府に入つてゐるとの意味ではありません。野に在つても、多くの人の組織を代表してゐる人は、場合によつてはその意見を天子様に申し上げられる組織が出来てゐなければ、斷じて日本的の自由主義政黨ではないと考へるのであります。

日本の一國一黨についての私共の見解を「昭和維新論」は次のやうに述べてゐます。

「國策の根本方針については、常に大御心を仰ぎ奉るべきことは申す迄もなく、次の場合には必ず躊躇することなく速かに聖斷を仰ぎ、民心の統一を圖らねばならぬ。

(イ) 最高機關間の意見對立

統帥部（大本營）と政府

(ロ) 最高機關内の意見の不一致

陸海軍間、黨最高幹部間

〔世界最終戰と東亞聯盟—九九頁〕

それから

「かくて同志の結成が次第に發達し、やがてその組織體が 天皇の御信任を得るに至つたならば、その最高幹部間に於ける意見の不一致に就いては、聖斷を仰ぎ奉る光榮に浴し得るであらう。これ日本に於ては、國體の靈力によつて、必ずしも指導者の現出を組織體統制の絶對的條件とせざることを意味するものである。」〔世界最終

戰と東亞聯盟—一二六頁〕

こゝにいふ指導者は、最高幹部一人の意味であります。本當に國民全體からの推舉を受け、而も 天子様の御信任が厚い一人の最高幹部が出来たならば特別であります。それ以外の場合には、數名の黨の最高幹部間の意見が一致しない時には——自由主義のやうに數黨對立の時代は駄目ですが、一國一黨の形をとり得るならば——畏多くも最高の幹部間の意見の不一致は聖斷によつて御決定を仰ぎ得るものと私共は信じてをるのであります。かうなれば始めて日本國體に合致するものであります。かくの如き國體に合致した一國一黨が日本にいけないといふことは、絶對にあり得ません。

第二は、國民性に適合しなければいけません。

その過程に於て、眞の指導者を得れば幸ひである。たゞこの場合にあつても、指導者はあくまで同志一致の道義的推舉によるべきである。而して指導の地位にあるものは、常により優れたる指導者を求め自らそれに讓るの心持が大切である。」〔世

界最終戦と東亞聯盟(一二六頁)

これが東洋的、日本的の政治道徳であります。一體西洋人は人に物をやる時に、「これは素晴らしいものだから差上げます」と言つて渡すのが禮儀らしい。日本人は自分ではとても天下一品と思つても、「これはつまらないものですが、どうぞ」と言つて差出すのが、吾々の生活感情であります。人間誰しも俺もと威張りたい氣持はあると思ひますが、それを抑へて謙讓に人につきあふことが、東洋の、我々の共通の道徳です。ところが近代自由主義思想の普及に伴ひ、外國の霸道主義の選舉制度をそのまま、日本に採り入れたのであります。人に物をやる時に、自分から素晴らしい天下の寶物である、素晴らしい物であるといふ西洋人の考へた制度を、日本人が眞似て、「諸君、俺の如く素晴らしい者はないから俺に一票入れ給へ」といふことは、日本の國民性に何といつても合致しない點があるのであります。

然し我々が謙讓であるといふことは、永年の道徳的訓練です。威張つて自分が支

配してやりたいと思ふのは、人間生れながらの動物的本能であります。たゞこれを永年の道徳で抑へ導いてをつたのであります。従つて西洋の文明を採り入れて以來、今日は俺がくで、指導者の候補者は數萬、數十萬、天下に群がつてゐます。少し氣が利いたら、全部俺がくで立つて行かうといふ。どうですか。この國難を、非常時を前にして、「俺がく」と飛び出して國民の團結を妨げてゐる。かゝる事態こそあらゆるものが、鬭争萬能の時代に墮落してゐる證據であります。口には皇道主義を唱へますけれども、心は野獸主義に墮落してゐるのであります。力が總べてだ、戦ひが總べてだと思つてゐる。本當の力あるものは、外見はあとなしいのであります。戦ふ時に最後の力を出すものは、平常は極めて慎み深いといふことが、日本人の道徳でなければならぬ。この意味に於て、選舉制度によつて禍ひされた俺がく政治を清算して、より優れたる指導者を求めて、自らこれに譲るといふ心境にならなければならぬのであります。

總べての點に於て臣民が最善を盡くして、まだそれでも危い時は躊躇せず聖斷を仰ぎ、國體のお力にすがらうとする國體に對する信仰心、もう一つはよりすぐれた人を求めてその人に指導を譲り、自分等は下積みになつて犬馬の勞を辭さない氣持、かういふ東洋的人生觀、この二つを組合せた本當に日本らしい、而も極めて強靱なる一國一黨を作つて行かなければならぬのであります。

大政翼贊會の性格は、未だ若干曖昧であります。政治的組織體であるのか、或は昔の精動的の政府從屬機關であるのか、なか／＼一定しないやうであります。近衛前總理が最初に考へられたのは、政治指導體つまり私のいふ黨部の組織を作らうとするにあつたものと考へるのであります。その見地からこれを若干批判して見ます。かやうな國民的政治組織は、謂ゆる下から段々盛上つて來ると云ふ方式が、最も望ましいのであります。その結成途上、相當に對抗するものがあつて、その間に切磋琢磨、鬭争を重ねて育つて行くことが、極めて合理的であります。國家權力を

持つてゐる者が、上から政治組織體を作ることには、そこに若干便宜主義の感がないのでもありません。然し國情は、西洋と日本とはまるで違ひます。滿洲建國當時、關東軍司令官は滿洲國の政治指導體として、協和會を作らうとしたのであります。それと大政翼贊會は、非常に似通つてゐると思ひます。西洋では到底考へられないことでもあります。日本では最高幹部たる人の頑張り如何で、上から立派なものを作り得る可能性絶無でないと思ひます。

一體、人間の社會を統制して行く場合、二つの原則を辨へなければならぬ。一つは生存競争、一つは相互扶助であります。鬭争の世界と協調の世界、これ人間の有する二つの本能であります。これを巧く按配して、社會を發達させるのです。天皇を中心とする國體によつて、正しき相互扶助の面を生かし、私益中心に逸脱する鬭争を制して健全なる社會建設に努力するのです。鬭争を全然しないといふのではありません。鬭争すべき場合には徹底的に鬭争するのが、正しい人間の責任であります。

東亞聯盟運動でもこの通りです。これは昨年十月中央參與會員の集りの時に申しました。我々は必要の場合断じて闘争を避けるものではありません。然し今日のやうな時勢に於ては西洋流の闘争萬能は極力慎まなければならぬと云つてをるのであります。私共のどうしても闘はなければならぬ場合は二つある。一つは、國家權力を持つてゐるものが權力を藉りて、不正をやる場合であります。世の中には已むを得ざる誤解がありますが、誤解ぢやない、分つてゐながら正しからざることをやるもの、權力を濫用して不正をやらうと云ふものに對しては、斷乎として闘はなければならぬのであります。更により根本の問題は國體の問題であります。反國體的言動をなすものには、官であらうと民であらうと、私共は最後まで闘はなければならぬのであります。然しこの二つ以外の意見の相違であるとか、或はまだ新しい時代に目を覺さないものに對しては、爲し得る限りの理解を以てこれを導いて行くのが、私共の態度でなければなりません。

ヒットラーが天下を取る時は、共產黨、社會民主黨等ヒットラーと力を以て争ふ種々なる團體が存在してゐたのであります。これらに對しヒットラーは果敢なる闘争によつてこれを叩きつぶし、遂に今日の支配權を得たのであります。ところが日本に於てはドイツの如く敵味方が分れてはゐないので。政黨は既に解消しました。だから西洋流に闘争をやらうと思つたならば、何とか理窟をつけて、喧嘩の種を作らなければならぬ。

かくの如く大政翼贊會にとつての問題は、決して反對黨との闘争ではありません。今日一番の問題は一億の人間がどちらへ行つていゝか分らないであることでありませう。口では偉さうなことを言ひますが、日本の今日は一億の迷へる國民がウロ／＼してゐるのであります。たとへ上からであらうが、信念を以て國民を引つ張つて行つたならば、國民はきつと附いて來ます。總理大臣自ら大政翼贊會の陣頭に立つて國民の意見を綜合し、國家の進路の發見に精進したならば上からでも國民組織は出

來ます。出來なければならぬ。日本の國の有難さはこゝに現れてゐるのであります。但しこの大政翼賛會が成功するためには二つの條件が必要である。第一は、指導原理の進展確立であります。速かに革新の方向を掴まへて、それを昭和維新實現の指導原理まで發展させて行くところに、始めてその團體の發展があります。この點大政翼賛會は十分考へなければならぬ。發足以來既に一年半、大政翼賛、臣道實踐といふやうな國民としての心構へは明かになつてをります。具體的な指導方針は遺憾ながらまだ發表されてをりませんし、況やそれが發展して行くといふ傾向はないのであります。この點、我々東亞聯盟運動者は決して自慢するものではありません。私共は、國家が全んが、とにかく昭和維新の指導原理の中核を握つてゐるのです。若し全面的に我々の指導原理が採用されるに至つたならば、我々は喜んで團體を解消するのであります。(「東亞聯盟協會運動要領」参照)

第二の問題は、總裁、副總裁等最高幹部が、全責任を以て自ら指導者網を編成して行かなければならぬこととあります。これは日本人には非常に困難であります。霸道主義の西洋人はなか／＼思ひ切つて決めますけれども、日本人は責任を以て決める場合なか／＼はつきりやり切れないやうです。東亞聯盟協會などもさうであります。支部活動の中心たる參與會員を決めようと思つても決め切らない支部があります。「この人を任命するならあれも入れなければ文句を言ふだらう」などと氣にしているつぱり決め切らない。その國民性は一面非常にいゝところもありますけれども、統制主義時代の今日に於ては、そのことはとても禍ひをします。大政翼賛會の最高幹部が自分で思ひ切つて支部長、或は各地方の常任理事を決める勇氣がなく、下委せに皆で相談で決めるといふことになる。大政翼賛會の前途は心配になります。現にこの小さな東亞聯盟協會でも、それが出來ないではありませんか。東亞聯盟協會が自ら指導者網を作ることとは、決して協會のためのみではありません。これからの

統制主義時代に於て國民が自ら實踐して行かなければならない組織方法を、東亞聯盟協會員は先づ身を以て實踐し、國民の模範となる勇氣がなければいかないのであります。

以上述べました二點が出来なければ、大政翼贊會の政治性獲得は困難であり、政府の從屬機關たる謂ゆる精動のやうなものに自ら甘んずる以外に途はないのであります。

次に、大政翼贊會と官憲の關係であります。中央に於て大政翼贊會は、官憲の從屬機關では無論ありません。中央に於ては巧く行つてをりますが、田舎のことを言ふと、支部長が知事の兼任である所に不合理が生じます。今日支部長には必ず知事になるといふ制度は、不合理と思ひます。統制主義時代にあつては、先に申しました通り、若干專制的景況を帯びて來るのであります。この時代に於て眞に巧くやらうと思つたならば、各府縣知事は、本當に國民の信頼を博して十年、二十年勤務す

るやうな人でなければいけない。さういふ人であれば、知事が支部長を兼任することとは、極めて合理的であります。即ち實力あり信望ある知事が、大政翼贊會の支部長になつたらば、統制主義の政治は始めて軌道に乗るのであります。今日、このやうな人が日本の知事に何人あるでせう。知事以外に本當に民心を把握出來てゐる人がありませんならば、その人を大政翼贊會の支部長にすべきだと考へます。そして知事と支部長は極力協調して行くが、若しもこの協調が取れない場合は、總裁、副總裁が、飛行機で電撃的に飛んで行つてピシヤ／＼裁く。これが指導者原理です。知事が支部長を兼任してをる場合には、知事は縣の行政と翼贊會の仕事とはつきり區別して處理すべきであります。各縣の知事の下に部長、課長、主任などがをります。また大政翼贊會の支部には支部として組織があります。事務的に兩者が協議するのは差支へないが、支部の組織部長を縣の部長が指導するとか、またはこれを縣の課長が指導するやうなことは絶対いけない。この間、或る縣で、振興課長が、「大

以翼贊會の支部は自分の擔任だ。大臣は天子様の御信任を頂き、その大臣の信任によつて長官がある。長官の信任によつて振興課長たる自分が、大政翼贊會を指導するのである」と言つたさうです。官吏にせよ大政翼贊會役員にせよ、各、本務を盡くすべき任務と使命を持つてゐます。その二つの摩擦を知事兼支部長は處理する。大本營で政戰兩略の摩擦を御統制遊ばすと似た形を以て、知事がこれを決定すべきであります。これも出来ない知事に支部長を兼任せしめることは斷じてよろしくありません。

即ち目下の状態では適當な支部長の發見が至難でありますから、知事が多く兼任することは已むを得ないでせう。さうすれば知事たるものは右のやうな責任を以て、官廳と翼贊會の業務を統制せねばなりません。そのうち適當な支部長のあるところにはその人を任命して兩事務を分離し、爾後逐次眞に知事にして而も支部長たり得る識見人格を具へた人を知事に任命し得るやうになれば、統制主義時代の地方行政

が始めてその軌道に乗るのであります。

黨部の話をしましたから、若干議會の性格に就いて述べて見ます。一體革新の時代に於ては、曲つたものを中庸の正しいところへ復すべき筈が、初期に於てはともすれば一時反對側へ行過ぎになることは致し方がないのであります。今日議會を否定する議論が相當ありますが、それは帝國憲法を改正しなければならぬことであり、重大問題であります。さういふ法律的のことは抜きにしても、今日東西共に強い國家を作つてゐる諸民族は、全部溫寒帶地方の北種に屬する民族であります。亞熱帶に住んでゐる南種は專制的で、社會の變革はあまり行はれないのであります。ところが北種は、その生活状態から大體どれも合議を好むのであります。萬機公論に決するのが北種の特徴であります。さうして社會がこれによつて常に發展する。政治的に關心をもたない民族は、優秀民族ではあり得ないのであります。白柳秀湖先生の著書を見ると、本當に社會の革新が最も合理的に行はれたのは、日本民族と、

アングロサクソンらしいのであります。やはりこの二つは政治的に世界に優れたる民族ではないかと思ひます。今日我が敵であります、英國人の政治性は相當に高く評價する必要ありと考へます。科學その他に就いては遙かに優つてゐるドイツ人も、政治性に關してはアングロサクソンに或は一步を譲る點があるのではないか。殊に私は、悠々として印度人を以てシンガポールを守らうといふあの英國人の糞度胸には敵ながら若干敬意を表します。この雄大なる國體を持つ日本は速かに我が同胞朝鮮人を國防の第一線に完全に立たせ得たいと思ひます。

何れにせよ、北種は專制的でなく合議制を好むのであります。殊に我々天孫民族は高天原の昔から、極めて巧妙に相談をやつて來てゐるのであります。專制時代の徳川時代でも、各自治體はよくその機能を發揮してゐたのであります。議會を否定することは、かういふ我々の國民性からいうて間違つてゐる。「萬機公論に決すべし」との 明治天皇の五ヶ條の御誓文は、今日と雖も大いなる意義を持つてゐるので

491029

あります。たゞその公論に決する方式を如何にするかといふことは、その時代の變化に應じなければなりません。近衛公の採つた新體制は、議員はそのまゝにし、それ以外に大政翼賛會の新しい組織を作つたのであります。大政翼賛運動が巧く完成すれば、國民の代表である議會と大政翼賛會の幹部とはびつたり一致すべきものであります。さういふ風に發展して行くか否かが、大政翼賛運動の前途を定めるバロメーターです。選舉法は無論大きな改革を必要とする。今日の選舉法では、どうしても國民の本當の代表と思へない人が、選舉の技術的關係から代表者として出るやうな状況になつてゐる。その點選舉法の根本的改正を必要としますが、法律そのものは、死物であります。どんな無理のある法律でも、本當に國民が國家を大切に思つたならば、どんなことをしても立派な代議士を送り得なければならぬ。その位のことを良心的に出來ないで、いくら口に昭和維新を唱へても駄目であります。この點私共は今後大きな關心を持たなければならぬのであります。議會そのもの

の運用も、自由主義時代のやうなのんびりした時代と、今日の統制主義の切羽詰つてゐる時代とは、まるで違ひます。自由主義時代では政府と議會とが相對立して、無理のない立法をすることに努力をし、また政府をどこまでも監督しようといふのが、議會の任務でありましたが、今日以後は議會と政府とは、渾然一體となつて、相寄り相扶けて國力の最大限を發揮しなければならぬ時代に立至つたのであります。

(3) 軍と政治

明治御維新は破壊が割合に少く、而も素晴らしい結果を擧げた世界に類ひない革新であります。然しその明治御維新以後の西洋の模倣が、急速であつたためにかなり各方面に中毒を來したのであります。自由主義政黨にも、非國體的の所があり、眞にすぐれた政治はあまり行はれなかつたのであります。この意味で完全なる政黨政治の發展は、日本にはなかつたと見るべきであります。これが自由主義政黨が亡び

たのに拘らず、その後新しい政治結成が發展しなかつた原因であります。ドイツ社會民主黨がやられる時は、もう次にナチスが出てゐました。滿洲事變を動機として、自由主義政黨は大打撃を受けたのであります。理論にのみ達者で實力のないインテリ連中は、口へこそ出さないが、心の中では社大黨位が自由主義政黨の次の政治力の如くに思つてをつたのであります。ところが非國體的の自由主義政黨亡び、その後繼を狙つてゐる社會主義政黨は、如何に日本流の社會主義になつてをつたところで、それに反國體的の——非國體的ではありません——分子を含んでゐたことは、否定出來ないと思ひます。そのため急速に日本精神に目を覺した國民大衆から、自由主義政黨と一緒に、否それ以上に徹底的に叩きのめされたのであります。

かくの如くして、自由主義政黨崩壊の後これに代るべき後繼者が現れず、以來日本は政治指導者を失つて、今日まで十ヶ年であります。このやうになりましたことに就いては國民は深い反省を必要とします。日本人は融通が利く、要領がいゝ、こ

れは確かに日本人の長所であります。他民族の文明を要領よく攝取して巧みに日本的に現實化する。例へば佛教であります。印度人の冥想の佛教が、支那に來ると尨大且つ整然たる體系をもつた佛教教學の展開となります。日本に來ると、親鸞聖人の南無阿彌陀佛、更に日蓮聖人の南無妙法蓮華經といふやうに一唱一句の中に全佛教の教義を簡明に包容してしまひます。これが日本文化の特徴であります。然し要領のいゝものには、同時に往々弊害が伴ふ。自由主義政黨亡びて後繼がない、これではいかんと國民全部が命懸けになつて早く新しい政治結成を作らうと、滿洲事變以來十年、今日まで努力してをつたならば、今日この非常時に際して、とても形勢は變つてをつたらうと思ひます。所が革新的指導を志した人々が、新しい國民組織體なんか作つてゐては間に合はないと考へ、強力なる組織體たる軍をして政治の指導力たらしめようとしたのであります。またこの考へが國民一般の希望でありました。かくの如く革新を唱へる人々が便宜主義で、間に合はないといふ氣持に

かられて、軍を無理々々政治の推進力に引つ張つて來たのであります。自分で引つ張つて來てゐながら、この頃になつてどうも蔭口を言ふ。軍人も慎まなければならぬが、國民にも最大の責任がある。不精で自ら必死の努力をせず、本來戦のためにある軍の組織を、政治の方面に引つ張つて來たことに就いては、大きな責任を國民に問はなければならぬのであります。たゞ一言申しますが、この軍と政治との關係が段々濃厚になつて來たのは、滿洲事變、支那事變の結果、占領地の政治問題が國內政治に影響してゐることは否定出來ません。

軍人には畏多くも 明治天皇の御勅諭の中に、『世論に惑はず政治に拘らず』と仰せられてゐるのであります。色々の法律にも軍人の政治關與を禁止してをります。私共軍人の立場からいふと、軍人は政治をやれない組織になつてゐるのです。何故であるかといへば、軍人には辭表を出す自由がない。軍人の經驗のない方は分りにくいことですが、軍人は辭表を出して勝手に辭めることが出來ない、即ち自由な行

動を取り得ないのであります。戦にあつては最も瞬間的に決定しなければならぬのであります。かういふ關係で軍隊が特異の組織體になつてゐるのです。辭表を出すことが出来ません。従つて戦のやり方については典範令、教育の仕方に就いては教育令等全部 陛下の御裁可を経て決定してゐるのであります。誰が師團長にならうが、誰が軍司令官にならうが、とにかくちんとやつて行ける。かうしなければ戦に間に合ひません。ところが政治はこれと事情を異にします。政治は到底軍事のやうに簡單明瞭ではあり得ない。政策が大きな變化を要する時は、責任を以て進退を決することが必要になるのであります。

今年の今頃です。或る滿洲國人が言ふには、「關東軍の首腦部は怪しからん、良心がない、信義を守らない。何故かといへば、一昨年の暮頃に東亞聯盟といふ言葉を協和會では使ふなといふことが關東軍から出たらしい。ところが、東亞聯盟といふことは、滿洲建國以來の滿洲國の國是であり、殊に一昨年の秋には全國聯合協議會

で東亞聯盟の線に向つて邁進することを決定してをり、また昨年の暮、日滿華共同宣言が發表された時、張總理は、東亞聯盟に向つて行くのだといふことをラジオ放送した。關東軍はそれを知つてゐる。それなのに東亞聯盟といふ言葉を使ふなといふ。それぢや人間の信義がない」と申すのであります。そこで私は、「御尤もだけども、それで軍を責めるのは無理だ。軍人は辭表を出せないのだ。良い、悪いもない。上司の命令であつたならば、必ずその通りやらなければいかぬのだ。君は實情を知らないのだ」と説明したところが、驚いて漸く納得して歸つて行つたのであります。

また、この頃下剋上といふことがよく言はれます。參謀長がある方針でやつてゐたのが、司令官の交代により方針が變ると、かねて服従の訓練は受けてをりますけれども、やはり人間でありますから、不用意の間に「實は前の方針がいゝのだがなア」と一寸洩らす。「なんだ、參謀長が司令官と違ふことを言つてゐる、下剋上だ」

といふやうに言はれる可能性が、非常に多いのであります。

御勅諭のお示しは實に深遠なる意味を持つてをります。軍人が政治に係れば、外からは軍人の信義を疑はれ、内部に於ては軍の不統一を來す惧れが、多分にあります。然しどうしても軍人が今日の制度では政治に入らなければならぬ一つの場合があるのです。占領地の行政即ち戦地の政治であります。曩に申しました通り、今日軍が政治の推進力といはれてゐる大きな原因は、自由政黨以後、政治に指導力なく、軍を國民が政治に引つ張り込んだためと、もう一つは、滿洲、支那事變以來、軍が占領地の政治をやつてゐるためであります。それも、日露戦争のやうに、澤山の軍隊が滿洲一部の狭い地域に作戦をする武力戦が重點で、後の占領地の行政は犬したことはなかつた時代は、それでよかつたが、滿洲事變のやうに、たつた二、三箇師團が滿洲中駆け廻つて、滿洲を占領する、占領地の政治は軍司令官がやらなければならぬ、かうなると作戦以上に政治が滿洲自身の運命を決定する重大問題にな

つて來るのであります。殊に支那事變となると更に大變であります。北京、天津、青島、濟南、上海、南京、漢口、廣東といふやうな所の、あの練れた中國人の相手をしての占領地の政治は、とてもくも重大な問題であります。かうなつて來ると、なか／＼容易なものでない。それが、國內の政治まで影響して來るのであります。

關東軍司令官の内面指導に就いては「昭和維新論」は次のやうに言つてゐます。「滿洲國成立の歴史的事情に基き、關東軍司令官が後見の地位に立つてゐるが、政治指導體たる滿洲帝國協和會の國策決定機能が向上すると共に、成るべく速かに關東軍司令官をしてその後見的地位を撤退せしめ、國防に専念し得るに至らしめねばならぬ。」(「世界最終戰と東亞聯盟」九一頁)

ところがその事に關しては、昨年二月二十五日發行の鶴鳴報(五十四號)といふ小さな新聞に、東公甫といふ名前で「東亞聯盟を衝く」と云ふ論文が出てゐるのであります。この論文には、先づ右の一節を引用し、これに對して次のやうに言つて

をるのであります。

「予輩の信ずるところに依れば、此の説は關東軍司令官の職責の意義を解してゐない。他の軍司令官と異り、關東軍司令官の親任式を擧げられる場合、畏多くも『卿ハ行イテ滿洲ノ育成ニ任スヘシ』との大詔を拜するのである。即ち、關東軍司令官は、只單なる後見人でなく、滿洲國皇帝の師傅である。天皇の大御心の下に、滿洲國皇帝と關東軍司令官とは、不二一體のものであり、……(中略)この關東軍司令官の後見的地位撤退こそ、皇國の主權を晦冥ならしむる如き論と言はざるを得ない」

關東軍司令官に對する大詔は今まで發表されてゐないのでありますが、東氏が公然これを引用してをつて、而も言論取締の喧しい今日、別に處分を受けた話も聽かないから、かやうな大詔が事實下賜されてゐたと拜察するのであります。さうすれば、關東軍司令官が滿洲事變後もなほ滿洲國政府の内面指導をやつてゐることは、正しいことでもあります。然し東氏が、非常に不敬なことを言つてをるのを看過出來

ないのであります。彼は我々を指して皇國の主權を晦冥ならしめると言ひながら、自分が實に不敬なことを言つてをるのであります。氏は、

「關東軍司令官の親任式を擧げらるゝ場合、畏多くも『卿ハ行イテ滿洲ノ育成ニ任スヘシ』との大詔を拜するのである。」

と書いてをります。「拜したのである」ならば結構であるが、まるで今後も關東軍司令官が、必ずかういふ御詔書を拜すると獨斷決定してをるのであります。實に不敬である。一體他人の所論を攻撃する場合、滅多に反國體的などと言ふべきではありません。これを平氣で言ひながら、氏は自分自ら大不敬のことを言うてをるのであります。

然し、この東氏の不敬言説はこの際暫く不問に附するとしても、この人の考へ方は間違つてをります。心を虚しうして大詔を拜讀しなければならぬ。御詔書を間違つて解釋したならば大變です。「卿ハ行イテ滿洲ノ育成ニ任スヘシ」と仰せられた。

また、帝國の國際聯盟離脱の詔書に、

「今次滿洲國ノ新興ニ當リ、帝國ハ其ノ獨立ヲ尊重シ」

と仰せられたのであります。獨立を尊重せよと仰せられた。そのために、育成に任ずべしといふ有難い御詔書を賜はつてをると拜察されるのであります。歴代の關東軍司令官は粉骨碎身育成の大任を果して、離脱の御詔書に仰せられる通り、完全に滿洲國の獨立を尊重し得る状態に持つて來るのが、その任務であります。滿洲國建國十年、未だ歴代の軍司令官が完全には育成の任務を達成し得ないことは恐懼しなければならぬ次第であります。今日依然關東軍司令官に、育成に任ずべしと御詔書を賜はつてをるでせう。育成の大任を全うして、速かに内面指導の必要ない状態に持つて來なければならぬのであります。

比較的整頓されてゐる滿洲國に於ても、まだ内面指導が行はれてゐます。廣大な中國の占領地に於て、軍が政治をやらなければならぬのは實に困難な問題であり

ます。殊に私の軍人として心配してをるのは、中國に於ては已むを得ず兵力をずつと分散してをります。このため若い將校まで、所によつては政治をやらなければならぬ狀況にあります。ところが軍人が政治に關係しますと、やゝもすれば軍本來の任務たる訓練第一が最高度に發揚されない恐れを生じます。若い將校まで政治に興味をもつやうになつたら國家のため非常な重大問題であると考へます。かういふ意味に於て、私は海軍の立場はとて羨ましく思ふのであります。陸上は廣い作戰をやるから占領地の政治面はまた當然廣くなる。船乗りにはさういふことは少いのであります。私、若干耳にするところによれば、海軍に於きましても上海、青島、特に海南島あたり軍事的に占領した所は、政治をしなければならぬのであります。が、何と申してもこれは海軍のホンの一部分であり、海軍主力は政治に關係なしに軍事に専念し得る極めて幸福の位地にあります。この點陸軍の軍人として、私は海軍を非常に羨ましく思はざるを得ないのであります。將來然し空軍が出來て、空軍

が戦時の最も重大な軍隊となれば、これは海軍以上に政治に關係しないで、非常に軍人らしいものが出来ると思ふのです。私は、その點大いに楽しみにしてゐるのであります。

また、今次大東亞戦争が長期戦となれば、南洋方面に於ても占領地の政治が長期に亘つて行はれると思ひます。それで私は考へ抜いた結果、私案を作りましたから、これを發表して、参考にしたいと思ひます。今日興亞院といふものがあります。この興亞院がどうして出来るやうになつたか、その事情について、板垣大將から一寸承つたのでありますが、當時の板垣陸軍大臣の氣持では、軍が占領地の行政に關係するのはどうも面白くないから、興亞院といふものを拵へて、作戰者以外でこれをやらうといふ氣持であつたらしいのであります。確に今申しました通り、この問題は滿洲事變、特に支那事變によつて軍としては非常に困難を嘗めてをるところより、その必要から起きた對策であります。然し私は、先輩のやられたことをかれこれ批

判するのは面白くないのであります。直観でありますけれども、結局これは無理だ、戦地に在つては何と申しても軍隊を握つてゐる軍司令官が最高の存在であります。軍司令官を離れたもので政治をやる、興亞院が政治をやるのは無理がある。やはり作戰と政治は、軍司令官に於て渾然一體にならなければならぬと考へるのであります。

それで私の考へました案は、占領地の政治をやるために特に軍政兵科といふものを設けたらどうかといふのです。これには絶對現役軍人を用ひません。豫備軍人又は軍人以外の適任者を能力に應じて軍政中將、軍政少將、軍政大尉等に任命します。これは終身官では無論ありません。一般の官吏と同じに、職を退くと共に免官される性質のものであり、その軍政兵科の將校は、一般の政治家と同じやうに辭表を提出し、責任を取つて自ら進退を決し得ることにします。従つて今の各軍の謂ゆる政治擔任の幕僚や特務機關等は、全部この軍政兵科を以て當てるのであります。即ち

作戰軍の最高指揮官のみが、作戰と占領地の政治とを全責任を以て自ら統一すべきものであります。作戰の幕僚には占領地の政治は關係せしめないといふ組織を採つて行くのであります。支那事變についていへば、中國に就いて深い理解を持ち中國人に信用ある人物を總動員して、それに技倆に應ずる軍政兵科の階級を與へ、適任なる軍政部長を選任してその下に貫せる主義思想の者を集めて作戰軍の軍政部を組織し、全責任を以て占領地の軍政をやらせるのであります。巧く行かなかつたならば、總辭職させる。かういふ風にして貫せる方針の下に責任を以て占領地を治めるならば事變解決に大きな光明を與へるし、一面我々本當に軍人として奉公せんとする人々には困難な政治上の負擔をかけない、非常に好い結果を齎すのではないかと思ひます。これが絶對萬全といふ策でありませんが、今日に於ては最も合理的方法と信じます。或は若干突飛と思はれるかも知れないが、重大でありますから、私は當局の參考にせられんことを希望するのであります。

(4) 官 憲

私の考へでは國家の權力を行使する官吏は、政治家と行政官とをはつきり區別することを希望するのであります。これは軍人と政治の問題と若干似て居る點があります。自ら政治に當るのは、中央に於ては大臣、次官であり、地方では知事であります。この人々が中央に於ては議員（今日は大政翼贊會員の總務委員等を含む）、地方では縣會議員（今日は大政翼贊會の常任理事を含む）と協議して全責任を以て政治をやつて行くのであります。中央では局長以下、地方では部長以下は事務官即ち行政官として正確に事務を處理して行くべきであります。

今日のやうに官吏の更迭の早いのは、高等文官試験を通つた者にすべて立身させようといふことを官吏の人事の基準にしてゐる結果に外ならぬ。知事も部長、課長もどん／＼變る。殆ど高級行政官になる稽古に地方行政に當つてをる有様が、今日の姿ではないか。私は、行政官になる人は、丁度陸軍の士官學校のやうに、官吏専門の

猛訓練を受けるべきだと思ひます。その人は着實に、例へば警察方面ならば巡査からやる。縣の學務部長は、教育分野に於けるその地方の最も優れた人であり、警察部長は、その縣の巡査から叩き上げて警察生活を二三十年やつて、どこに誰があるかを全部手に取るやうに分つてゐる人であります。但し知事が今のやうにどん／＼變つたならば、實權は下に移つて下剋上の状態となる。知事は、最も名譽ある重大なる職務である。次の、より適任者が現れるまで十年でも二十年でも勤務し、特に政治的領分決定は屬僚に委せないで、縣會議員、今日ならば大政翼贊會の常任理事を含みますが、さういふ人々の意見を參酌しつゝ、自ら全責任を以て決めて行く。事務官はこの命によつてキッチン／＼と迅速に事務を處理する。これが統制時代の行政であります。

私、滿洲事變當時、關東軍に勤務してをりましたが、職務上必要があつて、或る省長と度々交渉をしたので自然その事務處理方法を見學しました。省長が立派な机

を前にして、靜座瞑目筆を筆臺に立て、秘書が来るまで靜かに待つてゐる。秘書は各業務に従ひ數名あるらしく、書類は文書課より秘書に行き、秘書が整頓して省長に持つて来る。省長は秘書の説明を聽き瞑目して考へ、毛筆を取つて判決を書く。「警察部長適當にこれを區處すべし」と印を捺す。或は「内務部長かく／＼の方針の下に警察部長と諒解の下に實行せよ」と書いて印を捺す。この決定が各部長に下げられて事務はどん／＼進捗する。このやうに全部省長の全責任を以て決定せられる。省長が高い月給を貰つてゐるのはそのためであります。ところが日本では、通常下から段々決められて来て、上役は單に各部長や各課長の判が捺してあるか否かを注意すればよい。各部長、各課長の判があれば「宜しい」と自分の判を捺せばいゝ、(笑聲)。こんな仕事なら誰でも出来る。今日の日本の高級官吏は不當利得を取つてゐるといふべきであります。陳情に行つても、知事に代つて各課長全部渡りをつければ、認可される。かういふ自由主義の徹底したる事務管理のため筧棒に多くの事務官を

使つてゐる。官僚は今日最も重要な國家の機關であります。昭和維新の先驅として先づ自ら根本的に反省し、革新して、眞に能率的な事務管理をしなければならぬ。實は私「ナチス・ドイツの解剖」といふ森川覺三氏の書いたものにあると思つて和田君に讀んで貰つた所が、これにはなかつたらしいが、私この話を皆さんに御紹介しようと思ひます。著者が第二次歐洲大戰開始直後ドイツから歸るため、自分の持つてゐる外國製小型自動車の國外持出しを願つたところ許された。ところが鐵道省へ行つて貨車一輛配給してくれと言つたら、軍隊輸送中で出来ないといふ。證明書を書いて貰ひ、擔任の役所に出頭してガソリンの配給を要求したところ、いやいかんと言ふ。で、君の國家に於ては或る所は自動車を持出していゝと言ひ、或る所では貨車は出してはいかんと云ふ。君の政府は責任がないではないかと言つたところが、考へてよし出さうと云ふ。それには上役と若干相談したらしいが、窓口で決定しました。所要ガソリンを二百ガロンと言つたところ、あなたの車では一ガロンで幾キ

ロ走るからこれは百ガロンあれば宜い。二割の豫備を見積つて百二十ガロンの切符を渡された。國境に來たら丁度百ガロン使つてをつたといふのであります。若い官吏が責任を以てテキパキした事務處理をやる。これが統制國家でありまして、我が尊敬する日本の官僚諸君も、その位責任を以て事務處理が出来るやうにならなければいかんと思ひます。

何れにしても官吏は人體に例へれば國家の骨格的存在であります。綱紀を保ち、堅確なる國家の状態を保持することが官吏の重大なる仕事であります。でありますから、官吏は重責に感銘し、最も嚴格なる行動を取らねばならぬ。御馳走になつたり、官費での酒飲み等をやるべきものではありません。私共軍人が軍人勅諭を日夜拜讀して精神を磨いてをる如く、今日の官吏にも軍人勅諭に相當するやうな官吏服務に關する嚴格なる指針を仰いで、この曠古の時局に當り最も正しく強い官吏になることを私は心より希望する次第であります。

(5) 自治組織

自治組織は、筋肉や血液に當るものであります。融通自在のものであるべきです。國民は合理的にあらゆる角度から自治的に組織されなければならぬ。生活生産關係によつて、地域別にまたは職能別の自治體を組織して、その縦横に張られる組織はすべて黨部の指導者によつて政治的に統一されるのであります。勿論あらゆる自治體は自由主義時代の如き私益中心の考へを清算して、眞の公益中心のものになり、その指導者を公正に選定して行くことが國民の重大な義務になつて來る譯であります。官憲が色々の團體を持つてをります。産報であるとか、商報であるとか、農報であるとか、日に日に色々の團體が出来る。政治組織體のない今日は已むを得ないのであります。主義として官憲は絶対にこれを直接指導しない——或る種の例外のもの、在郷軍人會や警防團等は官憲の指導下にゐるのが適當でありませうが、その他の團體はすべて黨部の發達に伴ひその指導下に入るべきもので、決して官憲が

持つものではありません。これは官憲のためにも良くないのです。

四、綜合的觀察

「東亞聯盟」正月號に橋先生が御意見を述べになつてをるやうですが、私はまだ研究してをりませんから、勝手に私見を述べるのであります。

先づ政治といふことであります。政治學の一頁を讀まない私として誠に大膽なことでありますが、政治とは國家目的のためあらゆる力を綜合集中する行爲を呼ぶと私の頭の中で定義づけれます。従つて廣義の意味からいへば、國民のあらゆる行爲には政治性を認めることが出来るのであります。然し、特に私はこゝに政治といふ見地から、國家の力を權力を主とするものと理解を主とするものとの二つに分けることが出来ると思ひます。丁度戦争指導の時に、統帥と政治とに分けたやうに、二つに分けることが出来ます。國家權力を以てするものは官憲であるし、後者は各種の自治體で

あります。この官憲と各種の自治體、この二つの力を合理的に綜合することが政治の中心問題であり、そしてその任務は黨の司るところであると思ひます。將來私共の提案した大本營が出来ましたならば、これは黨部の見地から見ても中核であり、國家の中樞部であります。また内閣は黨部の中央機關であり、同時に行政の指令所であります。即ち各大臣次官は黨員であるべきです。黨員であり、而も黨の最高幹部でありますから、内閣は黨の中央機關と見ることが出来、同時にそれが行政の指令部であります。

以上述べた私の主張が正しいとすれば、下萬民の總意を綜合し、而も 陛下の御信任を辱うしてゐる黨が、統制主義の今日、特に政治力の中心でなければいけないのであります。従つて黨の良し悪し、立派なる黨を作り得るか得ないか、強力なる政治を、陛下の御親裁の下にやり得るか得ないかを決定するものであります。故に黨員は最も重大な責任を持ち、國民の指導者であるのであります。この指導者た

るべき人の決定が、政治の一番の重大問題であります。

曩に申しました通り、この小さな東亞聯盟協會に於て各支部は參與會員を作るべき義務と権利を持つてをるに拘らず、行使出来ない支部があります。かういふ支部はまだ東亞聯盟精神に徹底してゐない。また、本部としても如何にして公正に中央參與會員を決定するかに就いてはまだ徹底せる苦心が必要です。固より私共の協會は政治團體ではありません。たゞ「昭和維新論」の政治組織體結成の法則に準據してやつてゐる譯であります。

軍人や官吏には優れたる人々があるのでありますが、然し彼等は國家權力を行使する特別の存在でありますから、大臣の如きは別として一般官吏は黨員に屬せしめないのが合理的と考へるのであります。

第一は軍人であります。大本營に屬する極めて少數の者以外政治に關係なく、軍人は黨に屬しません。但し、戦地の高級指揮官は曩に申しました通り例外で政治に

當ります。

統制主義の今日は外國では軍人も通常黨員になつてをります。如何に強い統制力を持つてゐるソヴェエツトでも、またナチス・ドイツでも、國防軍の向背が政治家の大きな悩みでありますから、それには政治的結成をその中に挿んで、政治力で軍を押へておくのがどうしても必要になつて來るらしいので、ソ聯などでは高級將校の殆ど大半共産黨員であります。軍隊の本質から言つて、軍人が黨員であることは希望しないのであります。萬邦に優れたる國體をもつ日本に於ては、政治と軍事は天皇によつて完全に統一せらるゝのでありますから、軍人は政治結成に参加する必要はないのであります。この點は日本の軍人にとつて極めて幸福であり、國家の組織として甚だ強い一面を現してをるものと信じます。

次に官吏については、黨員たるべき者は政治家たる地位にある者に限るべきものと思ひます。その他の優秀者は準黨員として政治訓練を受けしめることは必要とし

ても、政治家たる地位にない者は黨員としない。

國家の組織としては、今のやうに黨の組織、自治體の組織外に、重大な組織として軍の組織と官憲の組織がある譯であります。右のやうな意味に於て、「昭和維新論」には、

「政治組織體と各種自治組織體とは密接不可分の關係にある國民組織體たるべきものであるから」(「世界最終戰と東亞聯盟」一二七頁)

とあり、國民組織體は、政治組織體と自治組織體との二つを意味してをります。かういふ點橋先生の御發表と少し違ふやうでありますから、本部で十分御検討戴きたいと思ひます。

再び歸つて統制のことを少しお話しして見たいと思ふのでありますが、統制の時代特にその初期に於ては、行過ぎの自由を整理するために專制的強制の部面が相當に強く行はなければならぬのであります。それがために、官憲の業務の擴大して

來るのは自然の勢ひであります。ロシアは無論のこと、ドイツでも、最近は英國でもアメリカでも、非常に官憲の権力が擴大して來たといふことは當然であります。然しこれは私の統制の批判から言へば、どこまでも統制初期の状況であつて、國民の統制訓練の進歩と共に、官憲の統制は逐次必要最小限度のところの後退せしめて行くべきものと考へるのであります。ところが、日本に於てはまだ黨部がありません。また、各種の自治體は殆ど問題になりません。隣組町内會もありますけれども、まだとても精神的團結になつてゐない。明治維新前にあつた組織は壞されてをります。各種の生産的の組合もまだ新しい統制時代の公益中心の道義的自治體にはなつてゐないのであります。このため已むを得ず、統制の必要に迫られると組織の完全してゐる官憲に統制を委することとなり、殊に最も組織化された警察に多くの負擔をかけるの已むを得ないこととなりました。

軍を政治の中心力に使つて、いざ軍が政治の推進力になると愚圖々々言ふのが日

本國民であります。自ら統制力がなくて官憲に統制をやつて貰はなければならぬやうになつて、愚圖々々言ふのが今の日本人です。優れたる能力をもつだけに口喧しいのも、日本人の特徴であります。これをお互の必死の努力で何とか克服して行くことが、昭和維新の大きな眼目であります。官憲にも考へて貰はなければならぬこと固よりですが、國民が特にこの點注意しなければならぬのであります。

何れにしても、今日のやうに、すべてを官憲がやつて行く——この間警察の方と話したのですが、私が軍が政治の推進力といふとビクツとする。軍人には政治は分らないのであります。同じやうに經濟生活相談所を開いてゐるあなた方もお困りでせうが、と言つたら笑つてをつた。軍人が政治を知らない程度に、警察官は經濟を知らないのだらうと思ひます。眞に官民一體にならしめるのが我々の今日の任務であります。即ち、今日の日本は骨ばかり大きくなつて肉が益々やせる。一見頑丈のやうで一寸風でも吹くとフラ／＼して危くて仕様がな。骨ばかりになつて倒れる

危険が多分にあると見なければならぬのであります。

自由から統制への發展進展は、素晴らしい能力を發揮するためであります。それが目的であります。觀念的理論的の争ひではない。自由主義者が考へ得なかつたところの跳躍的能力を擧げるための我々の統制なのです。ところが今日の日本の統制によつて消費を果してどれだけ節約出来たか、生産はどれだけ増加したか、これは皆さんの前に一々申上げる必要はないのであります。物によつては、統制して却つて生産能力を低下してをるものもあります。結局今日の日本の統制は、自由から統制への進歩でなく、自由から専制に後退を示してゐる場面が少くないのであります。然しこれは致し方がない。國民が、我々自體が自治的能力を持たない。ドイツが今日統制して巧くやつてゐるのは、國民性にもよるが、實に數十年來軍隊的訓練によつて、團體的行動の猛訓練を受けてをつた。更に第一次歐洲戦争以後酷い目に遭つて殆ど生活のドン底に落ち、而もナチスの前の社會民主黨時代から今日の戦争を豫

感し、あらゆる生活統制をやつてをつた。殊にナチスになつてからは周密なる計畫の下にこれに着手してをつたのであります。あらゆる條件の綜合の下に今日のドイツの統制があるのであります。第一次歐洲戦争で世界が苦勞してゐる時に、日本だけは成金になつてほろ酔ひ機嫌で喜んでをつたのであります。第一次歐洲戦争以後、統制主義への革新時代に、日本ほど呑氣に暮した國はないのであります。自由主義から統制主義への革命は、ロシア、イタリー、ドイツ、中國、スペイン等すべて敗戦或は敗戦に匹敵すべき大困難に際會した國家民族が、已むに已まれぬ必要に迫られてやつて來たのであります。聰明なる日本人は一番呑氣に構へて、この統制の革新時代に落伍し、口では昭和維新と言ひながら舊態依然たるのが、悲しい哉、今日日本の實状であります。非常時々と申しながら、どうでありますか。日本の國民生活は殆どまだ變つてゐない。「東亞聯盟」十二月號の武内文彬君の戦費論を見ると、既にドイツは税金を國民所得の五十パーセント、英國では七十パーセント徴つてゐ

る。日本の國民はどうであるか。とても重大な問題だと思ひます。大東亞戦争の進展に伴ひ、國民生活は必ず逼迫して來ます。こゝに始めて正しき統制が官民一體の基礎の上に發展して行くものと私は信ずるのであります。さうなつて來れば、天皇を戴く日本に於ては、統制主義時代に於ては官民業務の合理的分擔と緊密なる協同を可能ならしめ、特に萬邦無比の立派な社會を作り得るものと信ずるのであります。私共は「昭和維新論」に於て國內革新の重大綱目として「官治の制限と自治の再建」を擧げてをりますが、これは決して官を排斥し、自治のみを懲懲する譯ではありません。今申しました通り、官は骨であり、自治は血肉であります。これが渾然一體となつて完全なる國家社會を作らうといふ考へであります。

五、滿洲國の政治組織（圖表参照）

軍人である、私も滿洲國建國に若干の關聯があつた關係上、滿洲國の政治組織に

就いては相當な關心をもち、若干の意見もありました。この表に書いてあるのは、大體昭和十三年頃の私の考へであります。その後滿洲國の事情が、全く私に分らなくなり、今日どうあるべきかといふことは、自信を以て申上げることが出來ませんから、昭和十三年頃のこと就いて考へたことを今、説明しておきます。

皇帝の下に、滿洲帝國協和會の會長があります。私の考へでは、前にお話した日本に於て考へらるべき政治組織が、建國なほ日淺き滿洲國に於て更に簡明に行はるべきであり、その政治の中心は滿洲帝國協和會であるべきものと考へます。協和會の會長の下に建國大學が屬してをります。この建國大學で國策を企劃するのであります。協和會の會長の下に滿洲帝國協和會の中央事務局（今日の中央本部長）が屬してをります。その事務局長は企劃局を持つてをり、企劃局は、協和會の會策を企劃する任に當ります。また一方皇帝には國務總理が屬し、國務總理の下に總務廳があつて、政策を企劃します。建國大學の企劃する國策と、協和會の企劃局で企劃

數で選舉する日本のやうな選舉方式を基礎とする議會制度は、滿洲國成立の狀況上、私は適當と思つてゐないのであります。鬭争と協議とが、巧みに政治に使はれて行かなければならないのであります。民族混住の滿洲國であり、而も建國日新しく、まだ民族協和を唱道しながらも民族間の氣持がそこまでに至りにくい滿洲國に於て、日本のやうな數を争ふ選舉運動をやつたならば、必要でない色々の摩擦が發現して來るものと考へるのであります。聯合協議會は毎年定期的に開くことも結構でせうが、主として大きな事件のある毎に開いたらよいと思ひます。またその代表者も必ずしも常に一定して置く必要はない。例へば興農合作社のことに就いて大きな變革を加へようとして聯合協議會にかけるものとすれば、これに關する達見あり經驗ある人を各地方から集める。或は日本の開拓民問題で一番合理的の姿を取らうといふ考へから、開拓民に關する聯合協議會を開かうと思つたならば、北滿に於ける開拓民の代表者とその地方に於ける先住民族の代表者を集めて協議する。開拓問題の協

議に際し開拓民のゐない所から代表を集める必要はないのであります。かういふ風にその重大なる協議問題に就いて代表者を定めるやうにしたならば、滿洲國では適當であらうと思ひます。今日協和會が未發達であり、下部組織が發達してゐませんから、全國聯合協議會の代表者を選出する方法に就いては、まだ適當に行かず、やもすれば權力を持つ官廳の人が、自分の意志で代表者を選定することがあるのではないかと思ひます。

次に政府である國務院の編成は、この圖のやうに簡單に考へたのです。民生部、經濟部、外交部、司法部です。外交部、司法部は問題外ですがそれ以外の政務をまとめて民生部、經濟部に分けてしまふ。これは山口重次君の意見を尊重したのであります。民生部は日本の内務省的のものであります。然し内務省だけではありませぬ。日本の農林省とか文部省とかさういふやうな任務は、殆どこの中に入つてしまふのであります。經濟部は日本の鐵道省、逓信省、商工省といふやうなものを含む

ものであり、要するに滿洲開發の經濟建設をやるどころであります。大きくこの二つの官廳に分けてしまふ。さうして地方行政には全部民生部一本で指令が行き、また産業の五ヶ年計畫に關するものはすべて經濟部から指令をするのがいい、だらうといふ考へであります。別に宮内府があり、軍政部があります。軍政部の下に滿洲國軍が屬してをります。これは日滿議定書により關東軍司令官の指揮を受ける。

そこで重大なのは協和會の問題であります。協和會は今まで出來てをるのから言へば、ドイツのナチスと非常に似通つて作られたものであります。今お話したやうな要領により協和會會長が、皇帝の御意志を奉じて滿洲國政治の最高指導に當る譯であります。この協和會は日本の大政翼贊會と同じやうに、滿洲建國の最高指導者であつた關東軍司令官が作つたものであります。これを作られた本庄大將からはつきりしたことは承つてをりませんが、私の考へでは滿洲帝國協和會の健全なる發達を圖つて協和會が滿洲國の政治を擔任し得るやうになつたならば、關東軍司令官

の内面指導を撤回しようといふ考へではなかつたかと思ふ。ところが昭和七年の七月二十五日發會式を漸く擧げたのであります。本庄大將がその年の八月に轉任されると、その次に來た關東軍の首脳部は政治性を認めないで、これを精動化してしまつたのであります。板垣大將が參謀副長續いて參謀長になつた時に再びこれを改組して、建國當時の強度の政治性をもつものとすべく、昭和十一年九月十八日「協和會の根本精神」といふものを出して會創立の精神に還したのであります。ところが昨年（昭和十一年）の二月か三月頃と記憶してをりますが、直接滿洲帝國協和會の根本精神にはふれることなく人事の大異動が行はれ、いろ／＼私の聞くところによれば、再び協和會は日本の大政翼贊會が一時精動化されたと同じやうな形式で、略、同じ時期に精動化されてしまつてをるやうであります。協和會がこのやうに政治の指導力を持つことが出來ない狀況である間は、なか／＼滿洲國の育成は覺束ないと私は思ひます。

建國當時本庄大將がまだ滿洲建國に關係してをられた時には、軍司令官の下に幕僚部の外に特務部を作つたのであります。これは最初統治部といつて滿洲占領地の行政を自らやつてをりましたが、滿洲建國と大體時を同じうして特務部に改革したのであります。これは關東軍司令官が滿洲國を内面指導する機關であります。關東軍司令官は幕僚部を使つて軍隊を指揮すると同時に、特務部の輔佐によつて滿洲國の政府及び滿鐵を指導する、かういふ形を採つたのであります。前に占領地の行政を説明した際、軍政兵科を設けて、軍政部によつて、作戰關係者と關係なく軍司令官がこれを指揮すると申しましたが、それと同じ形が自然に採られたのであります。特務部は最初本庄大將の意見では、最も優秀なる専門家を集め、簡明な委員組織にしようと思つた。その調査立案機關として當時宮崎正義君が作つた滿鐵經濟調査會を十分活用し、調査立案の上はその審議を特務部の委員組織によつてやらうと思つたのであります。ところが當時氣の利いた人は誰も滿洲國にやつて來ないのです。

滿洲國が完全に出来るといふやうなことは、當時の日本のインテリは考へない。——一體インテリは神經は細かく敏感でありながら、革新時代の本當の大きな動きには鈍感であります。誰も偉い人はやつて來ないため非常な人選難に陥つた。この時私の同期の安田武雄中將（當時大佐）と横山勇中將の二人の軍人が入りました。世間は、私が推薦したやうに思つてをりますが、そんなことは絶対ありません。たゞ安田中將は日本に於ける無線通信の最高權威の一人であります。横山勇中將は今の企劃院の前身である資源局にをり總動員關係を一手に引受けてやつた、その道の最高權威であります。かういふエキスパート二人が來たのであります。軍人として入つたのであります。さういふ考へであつた。ところがこれも本庄大將が滿洲國を去られた後は、いつの間にかやうに特務部に入つてをる軍人が行政的に特務部を牛耳るやうな組織になり、同時に段々進んで特務部が最初統治部といはれたやうに、政治をやる實行機關のやうに變つて、非常に老大なるものになつたのであります。特務

部はよく働きました。が、滿洲國の獨立即ち育成には適當でないと考えられ、他にも理由はあつたやうですが、とうとう特務部は解散されたのであります。爾來、今日もなほ滿洲國のいろ／＼な複雑なる事情によつて依然として關東軍司令官が、滿洲帝國の政治の内面指導をやらざるを得ない立場にあるのであります。

協和會は昨年とう／＼改組され、今日の如き状況であります。私は本庄大將の幕僚でありましたし、本庄大將のやられたやうな氣持が正しいと今でも信じてをります。然し考へれば、協和會が精動化して政治の指導性を問はれることは、自然の傾向で致し方がないと思ひます。如何となれば、各種の困難なる事情で滿洲國の育成がなか／＼完成しない。つまり、軍司令官の内面指導を撤回し得る状況に來にくいのです。かゝる状態では、政治指導力としての國民組織體の發展は望まれないのが原則であります。私は滿洲帝國協和會が今日の如き姿になつたことは、滿洲國の現状から見れば來るところに來たものと考へてをります。何れ大東亞戰爭の進展によ

つて東亞聯盟が本當に結成せられ、東亞が昭和維新時代の新しい姿に立返るやうになりましたならば、本庄大將の理想とされたやうな滿洲國の政治状態が來て、協和會も新しい生命を持ち直すものであらうと思ひます。

次に協和會の會長に屬すべき建國大學に就いて一寸お話ししておきます。これは私の空想であつて、今の建國大學をかれこれ言ふ譯ではありませんからその點を御諒解願ひます。滿洲建國は天下の大勢に順應して生れたとはいへ、人爲的の工作でありますから、この建設に當つては思ひ切つた果敢なる理想的のものを作る可能性があるのであります。この私共の建國大學の案なども、在來いろ／＼のいささつのあるところでは到底行はれないのであります。が、滿洲國としては實行の可能性が絶無ではなかつたと思ひます。

私は東洋に於ては政治の中心は文教にあると思ひてをります。論語一卷懐に入れて天下の政治を完全にやれるのが、東洋の政治であります。廣義の意味の教育が政

治の中心である。その意味に於てこの建國大學は政治大學であります。最初の大同學院はそれであつた。今でも私は建國大學と呼ぶより大同學院といふ名稱に愛着を覺えてをります。滿洲國建國の精神を中樞部に吹き込む、新しい政治に參與する人を養成するための大同學院と考へたところが、いつの間にかやら時局の切迫に迫られまして、大同學院が、今日の如く官吏の養成機關になつた。無理もありません。滿洲建國の精神を政治的に教へ得る大同學院の教授は求めようと思つても得られない。その邊我々の空想がある。やるならば本庄大將自らやらなければならぬ。滿洲建國なんか學者には分らない。幾ら學問があらうが出来ない。結局方便的の官吏養成機關になつたのであります。

それで、板垣大將が關東軍の參謀長時代、どうもあれではないかん、何とかしてもう一遍大同學院で考へたやうな政治大學を作つて貰はうではないかといふ希望に自然影響せられて、建國大學になつたものと考へます。ところが、これもやはり前と

同じやうに、建國大學に然るべき指導者、教授連中を揃へることが至難な譯であります。然し建國大學と名前を發表した以上は早く作らなければならぬといふのが、今時の日本人の氣持です。ゆつくりと着實に地味にやつて行かうといふことは、今の日本人には出来ない。それで今の建國大學は遺憾ながら日本の綜合大學と同じやうな模型であり、而も中には立派な方もをります。結局日本の綜合大學に類似し而もそれより程度の低いものになつてしまつてをるのではないかと危ぶみます。然し或は何時かまた段々變つて來ることはないとも言はれないから、私共の同志の氣持を御紹介して置くことも絶対徒勞ではないと思ひます。

自由主義時代には法科や文科の大學は必要ないといふのが、私の意見です。塾があればいい。若しも大學ならば便宜上塾の集合であればいい。學生が笈を負うて郷里から出て來る。その教へを受ける先生を自ら求めるのが自由主義時代の學校であるべきです。先生方の思想は必ずしも統一せられてゐる必要はない。大學は優れた

る教授の集合體であることが、自由主義時代の教育方式であります。ところが全體主義時代になると話が違ふ。殊に少くとも政治大學が存立するならば、これは綜合且つ統一的な學校にならなければならぬのであります。統一的になるためには、中心の理想がはつきりしなければならぬ。建國大學の中心の學問は何か。日本の國體學に該當すべき滿洲國建國の精神を明かにする王道學であります。あらゆる方面から滿洲建國の最高理想をこゝに明かにする。さうしてその王道學に基づいて王道戰爭學といふものを置くのであります。王道戰爭學は申すまでもなく最終戰爭準備期間及び最終戰爭に於ける滿洲國の擔任すべき東亞國防の研究をする學問であります。王道學、王道戰爭學、この二つが物心兩方面に於ける建國大學の中心であります。それに基づいて、いろいろの學問が出て來るのであります。なるべく科目を少くする爲に次の三つがいゝのではないか、即ち王道政治學、王道社會學、王道經濟學であります。どういふことを研究するかに就いては、當時の記録を引つ張り出

すと次のやうに書いてあります。

◇王道社會學 滿洲諸民族の習性を、徹底的に研究し、その特異なるものは尊重すると共に、融合緩和の方法を講じ、その共通なるものに就いては體系化し、以て民族協和の見地に於ける理想社會の實現を圖るべし。

◇王道經濟學 滿洲國の國防的責務に基づく國防國家として必要なる經濟力の養成（滿洲國産業開發計畫）を研究の主題とし、各民族の特徴を如何に活用し、如何に調和せしむべきかを考究し、以て公正なる經濟組織の建設を企圖す。

◇王道政治學 換言すれば協和政治學なり。民族協和の滿洲國に適應すべき公益中心政治の探究を主眼とす。

以上、王道學、王道戰爭學、王道政治學、王道經濟學、王道社會學、この五つの科目が建國大學の主要課目であり、この五課目の教授が協和會の會長を中心とした同志的學者であります。これだけのことを整へるには何年かゝるか分らない。それ

が大體出來たならば滿洲建國大學の基礎が始めて確立する。さうしてその廻りに補助學をおきます。補助學はいろいろありませうが、特に歴史的のものに私共は深い關心をもつてをつたのであります。その歴史的方面に於て、滿洲國を中心とする東洋歴史、それから滿洲帝國史、即ち滿洲建國以來の歴史を、歴史としてはまだ淺いのであります。滿洲國建國の歴史を検討して批判する。本庄大將以下滿洲建國の大事業に參畫した人々は、自分の失敗も喜んで世の中に晒け出すのに一つも躊躇しないでありませう。遠慮會釋なく滿洲建國以來のことを検討批判すべきものであると私共は思ひます。この外に參考に臺灣、朝鮮の統治史の研究をし、また、印度、安南、フィリッピン、外蒙の統治史も研究する。要するに日本が明治時代に於て、臺灣、朝鮮を統治して彼等の生活向上その他に於て非常なる幸福を與へたに拘らず、まだ民心が十分に安定してゐない原因を明かにする。それから西洋人の植民政策もよく見て、比較研究して、滿洲國政治の參考にしようといふのであります。これだ

けが正規の學問であります。その外に、統制の缺點は常に獨善になることでもありますから、獨善を避けるために、天才的學者を廣く世界に求めてその創意と批判とを活用する。なるべく素晴らしい先生方を聘んで来て、どん／＼褒めさせる。悪口も言はせる。御尤もと思ふことは喜んでこれを聽く。廣く批判を世界に求めるといふ氣持であります。

以上が滿洲國指導原理研究部といふべきものとしての建國大學の概貌であります。今の建國大學の如きものは丁度、文理科大學に於ける附屬中學のやうにこの研究部に附屬すべきものであります。更にその外に國策企畫部といふものを設ける。日本の企畫院に當るものであります。尤も今の企畫院は細かいことをやるが、これはさうではありません。滿洲國の國策を立案するのであります。建國大學で滿洲建國の根本方針を検討したその方針に基づいて、こゝで國策を企畫するのであります。協和會會長であり、恐らく國務總理である建國大學の指導者が、全責任を以てやるべ

きであり、さういふ人は私は差當り本庄大將が最も適任ではないかと思つたのであります。滿洲國の最高指導者であり、滿洲國教育の中核であります。さうしてこの建國大學が廣く滿洲建國の政治的經濟的指導者の鍊成をやるのであります。即ち各方面の優秀なる幹部級の人物を絶えず召集して、訓練します。のみならず、更に進んで大學自ら街頭に進出し、社會教育に當るのであります。このやうなことは恐らく今日の日本の學者の方方に言はせれば飛んでもない空想だといふのでせうが、本當に徹底した東洋らしい統制主義時代の政治大學を作つて貰ひたいといふのが、私共の念願であつたのであります。

第二節 人

一昨年から昨年にかけて、東亞聯盟協會の斡旋により日本の學者の方々が南京に行き、南京側の學者と會見してをるのであります。その會見に立會つた若い我々の

同志が、頻りに私に懇へるのですが、中國の學者と日本の學者と會ふと、學問は日本の學者があるだらうと思ひますが、會つて話してゐるのを見るとアルミニウムと鋼とぶつかつたやうで、日本の方が押されてゐる、もう送らぬ方がよいといふ。私これを或る學者に申したところが、「それはさうですよ。今、南京に行く日本の學者は二三流の學者ですからなア」といふ。或はさうでせう、然し、今、南京に残つてゐる中國人は四五流の學者である。第一流のものは重慶、昆明に行つてゐる。私はこの點、非常に考へなければいかんと思ひます。非常に失禮な言ひ分ですが、蔣介石陣營と近衛公の陣營を考へて見ると、みな頭は日本がよい。男振りはい、家柄は申分ない。然し、どうも蔣介石の方は荒武者で鍛へてをるやうは私共は思ふのであります。而もそれは最高指導階級だけではない、國民全部に互つてさうであります。内地の勞働者も、朝鮮の勞働者に今日は敵はない。朝鮮勞働者は内地の勞働者の二三倍働く。指導者群から、百姓、勞働者に至るまで、どうも今日の日本人は

剛健なる氣風を失つて、身心共に弱々しい状況にあるのであります。これは或る意味に於ける誤れる自由主義教育の綜合的結果であります。

私はこの點各方面からとても心配してをつたのであります。ところが先日加藤完治氏が滿洲國から歸つて來られ、得意になつて私に對しお話をされるのを聞いて感激したのであります。加藤さんは、青少年義勇軍が思つたよりもいろ／＼悪いことがあるので、非常に心配してをつたのであります。曾て島木健作氏が移民の悪口を改造に書きましたとき、加藤さんは、島木はよく知らないで悪口を言ふと非常に憤慨してをつた。ところが先日加藤さんが歸つて來て、「石原君、私は島木君にあやまらなければいけない」と言ふのであります。悪いと思つてあやまれる人ほど尊い人はないと思ふ。この點私は加藤さんに最高の敬意を拂ふ。曾てこんなことがありました。私は加藤さんと滿拓は滿洲開拓のため既墾地は買はないことをお互にはつきり約束した。これはまことに長多い話であるが、陛下の御思召であります。

天皇陛下が張國務總理に御下問になられたことにつき、滿洲國の人々はいたく感激してをるのであります。また秩父宮様が北滿にお出でになつた時に、宮様からこの思召を拜してをるのであります。滿洲人の耕した土地は國策として買はない。普通の商行為で買ふのはいいが、國策だと言つて權力で買ふことはやらない、このことを加藤さんは非常に賛成だと言つた。ところがその後私が參謀副長の時に來て、「石原君、餘り慘酷なことを言ふな、滿拓は一割か二割の既墾地を買ふのだ、滿洲の百姓はその位は勘辨してくれ給へ」と言ふ。「加藤さん、約束が違ふぢやないか、あなたは一體祝詞を上げながら泥棒するののか」と言ふと、向ふも開き直つたが、いろいろ話したところが加藤さん立上つて、「石原君、參りました」と言ふ。さうして靴を履いて走つて行く、會議に行つたらしい。歸つて來て、「石原君、絶對既墾地は買はないことに決めました」と言ふのです。このやうな點實に偉いですね。人は加藤完治氏を死んだ二宮尊徳とか石川理紀之助翁とかと並べてまるで神様扱ひにしてをり

ますが、私も加藤さんは神様に近いとても偉いところがあると思ひます。

話は一寸横道にそれましたが、「然し石原君、安心してくれ、本當に義勇軍の鍛へた者は素晴らしい」といろ／＼の話がありました。加藤さんが准幹部の百五十人の人を引つ張つて撫順へ行き、石炭掘りをやらしてくれといったところが、會社の最高幹部は宜しいと言つたが、炭坑では手足まとひになるからと言つていやがつた。進んで一番困難のところをやつた。ところが、十六、十七、十八位の子供が斷乎として苦力の三倍位やる。苦力が口惜しがつて必死にやつて相當追ひついて来るが、斷然義勇軍がぐつとよい成績を挙げたさうであります。私は非常に喜ぶのであります。日本民族が弱い譯は絶対にありません。鍛錬であり、教育であります。義勇軍の悪口をいふ人は澤山ある。急造なのでやり方も悪い點があります。これからも幾多の失敗もあらうが、然し今まで義勇軍を見て來た人の殆ど符節を合せてゐる報告は、義勇軍の悪口を言ふ人でも、三年間鍛へられた子供に會ふと押される、といふ

のであります。とても強い迫力をあの鍛錬の中に獲得してをることは明瞭であります。日本民族はか弱い民族では斷じてありません。今度のハワイ海戦、マレー沖海戦のあの日本海軍の將兵の行動などは實に非常な訓練を積んだ表れであります。鍛へに鍛へた青少年義勇軍の准幹部が、素晴らしい力を發揮したことは當然であります。日本人は斷じてか弱い者ではありません。この、人を先づ鍛錬することが、昭和維新の一番眼目であります。その基礎なくして、徒らに騒いでも駄目です。この意味に於て第一に必要なのは、我々を本當に偉いものに作るための世界觀であります。

一、世界觀

第一に國體信念の涵養であります。日本の國體が今日の如く口にされてゐる時代は、日本の開闢以來曾てありません。盛況を極めてをります。然し、私の靜かに觀るところによれば、非常に目出度いけれども、本當に國體の信念を持つてをる人は

——まだ多いとは言へないのではないかと思ふ。私の憂慮に堪へないところであり
ます。二三の例を挙げると、第一八絃一字といふ日本建國の精神を信じてゐない人
が多いのであります。八絃一字は誰でも口にしますけれど、それを信じてゐる人は
比較的少いのです。何よりの證據は最終戦争に反対する一つの理由として、人類の
在る間は戦争は絶対になくならないといふのが一部の常識であります。私こゝにな
んとも言はれない淋しさを覚えるのです。それならば八絃一字と言はないが宜しい。
八絃一字といふことは、申すまでもなく戦争のなくなつてゐる姿でなければならな
い。口に八絃一字と言ひながら、心の中では絶対に戦争はなくならないと思つてゐ
るのです。この位の嘘はありません。一體人間は誰でも多少の嘘偽りはありませう。
然しものには程度があります。社會が嘘を以て充滿した時、維新されなければなら
ない時です。一番大事な國體に對して嘘を言つてゐる。口に八絃一字、心ではなア
に戦は絶えない。實に最も嘆かましい淋しい極みであります。我々に一番大切なこ

とをいゝ加減にしてゐるのです。昭和維新は絶対に不可避であるといふことが、こ
の國民一部の大嘘から見ても明かであります。

それから他の例を挙げれば、多くの東亞聯盟に反対する人間は、東亞聯盟は平面
主義でいけないといふ。これまた私から言へば痛憤に堪へないのであります。「東亞
聯盟建設要綱」を御覽になればすぐ分ります。東亞聯盟の盟主は 天皇であらせら
るべきものであると言つてゐるのです。これは昭和十四年八月、杉浦晴男君の名で
出た「東亞聯盟建設要綱」の初版からはつきり出てゐる。第二改訂版から東亞聯盟
の盟主といふ獨立の一節にしたのであります。

その一節にしたことに就いてはとても問題がある。今日こゝにをられる中山先生
初め、同志から非常に御心配を受けたのであります。天皇が東亞聯盟の盟主であ
らせらるべきものだといふことは、東亞聯盟の現段階からいつて、今はまだはつき
り言はん方がいゝのではないかといふのです。私共もさう思ひます。すべて東亞聯

盟に於ける日本の立場に就いては、最大限の謙讓なる態度を以て書かうと私共努力してをります。それが未來のことを東亞聯盟の盟主は 天皇であらせらるべきものであるといふことを書くのは、どうも政治的に見て希望しないといふことは私共十分に認めるのであります。然し、主張として絶対に正しいことだけは、百萬人と雖も我往かん、であります。眞心を以て懇へることによつて、必ず全人類を感動せしめることが出来る、これが私共の信念であります。今日私共は 天皇が東亞聯盟の盟主であるといふことを外國に向つて論争しようといふ意志は少しもありません。然し主義だけはつきりしておきたい。但しお断りしておきますが、この獨立の一節といふ表現をとつたことに就いても、全く日本人だけの獨斷で書いたものではないと云へません。然し異民族の一部の理解はあつたにせよ、この事を公にするのは非常に危険であるに拘らず、斷乎としてこれを表明いたしました。臆病だと言はれてをる我々が或る點には案外勇氣があるといへます。東亞聯盟の特徴は何であるか。東亞

理念の多くはペーパープランです。日本のインテリが机上に書いたプランです。東亞聯盟だけは、十ヶ年間の生命の通つた體驗記録であります。今日に於て東亞聯盟の名は東亞の國寶的存在ともいふべきであります。日華の兩民族が、一つの思想の下に、何千何萬人が同志として結合をしたことは、東亞の歴史あつて以來断じてないことでもあります。日本國內に於ける多くの興亞理念は、ペーパープランであるに拘らず、東亞聯盟は本當に幾千幾萬の人間の國境を越えての同志的存在であります。私には誰が何と言つても國寶的存在であると信じてをります。必ずこれによつて東亞は救はれる。力だけでは東亞が本當に救はれない、力とこの信頼とによつて始めて繋られる。日本の世界を相手に恐れない實力、今度の大東亞戦争の威力、それだけではいけません。日本人と中國人の心からの信頼によつて東亞は救はれるのであります。東亞聯盟の盟主は 天皇であらせられると書いて、そのため幾萬の中國人から排撃される惧れがあると考へれば、非常に恐怖を覺えるのでありますけれども、而も

斷じて東亞聯盟の盟主は 天皇であらせらるべきものであると書いてをる私共の切實なる氣持は、口でだけ愛國主義を唱へてゐる人々には理解し難いやうであります。天皇が東亞聯盟の盟主であらせらるべきものだと言ひてゐる我々に對し、「東亞聯盟は平面主義だ」といふものは逆賊であります。今の自稱愛國主義者は口に國體を唱へながら 天皇の絶對性を信仰してゐない。東亞聯盟が平面思想だといふ批判はどこから出るか、かういふのが今の自稱愛國主義者、自稱國體主義者の行動であり、かくの如き傾向に對してはまだ、我々としては必死になつて勉強し、闘ふべきものは闘つて行かなければならぬのであります。

更に一例を挙げます。この頃反對論者に對し、すぐ「あいつは赤だ」と攻撃する。これも日本人が國體に對する敬虔なる態度を忘れてをるからであります。私は惡口家で有名でありますけれども、人の惡口言ふには相當考へなければならぬ。想像して人の惡口を無暗に言ふべきではありません。必ずその人の言動、性格を見るか、

その人と話をするか、或はその人の書いた物を正確に判定して、初めて合點して惡口言ふ、それだけの道德を守らなければならぬ。殊に「あいつは赤だ」といふことは、反國體者だといふことであります。國體に對する叛逆者を意味してをります。日本人として最惡の罪名を與はせられる。女の貞操を疑ふと同じことであります。人の生命を斷つことであります。苟もさういふことを言ふならば、少くとも同情を以てその人を嚴密に調査した上でなければなりません。ものあはれを知つてをる日本人として「あいつは赤だ」と輕々しく言へるといふことは、國體に對する敬虔の念がないからです。自分の政敵を葬るため赤だと言つて、國體を利用しようといふことは、國體の尊嚴を冒瀆するものであります。

かやうに考へますと、今日あらゆる角度に於て國體論の非常に盛んなることは洵に有難いと思ふのであります。この反面いかものが非常に多いのであります。外來文明が來ると、日本はやはり一遍は思想界その他に混亂を起します。儒教、佛教

皆さうでありました。明治以後急速に採り入れた西洋の科學文明によつて、日本は非常に混亂した譯であります。國體に目を覺してをりながら中味は依然その西洋かぶれ、西洋中毒の病氣が抜け切らないのであります。然しこの西洋かぶれを清算して、西洋文明の採るべきものは採り、本當に日本の姿に還つた時に、日本國體は今度こそ始めて最高の徹底せる完全なる力を發揮する時であります。さうして我々は最終戦争を迎へるのであります。

次に日本に於ては、維新は常に國體明徴運動であります。維新は常に王政復古であります。王政復古といふと皆様はびつくりされるかも知れませんが、明治維新によつて 天皇親政に還つたものが、大正時代から再び曇りを來したのであります。謂ゆる天皇機關説であります。天皇機關説に對して國體明徴が唱道せられたといふことは、つまり王政復古が必要だといふことであります。昭和維新が必要だといふことであつて、觀念的には天皇機關説は今日擊破されましたけれども、依然として

國民の言動にまだ天皇機關説の實質が相當に存在してをることは前に述べた通りであります。眞に王政復古、これが今日の最も重大な問題であります。昭和維新の中心問題であります。

國體をあらゆる方面から科學的に、哲學的に研究することは、非常に結構であります。我々國民としては、難しい理窟でなくても、大本營の所で申しました通り、本當に心から聖斷を信受することが、私共の國體に對する結論であります。陛下の思召ならば、心の底から絶対に歡喜して、今までは反對の考へをもつてをつた者も、**聖斷**一度下つたならば、欣喜雀躍して、その聖斷をお迎へすることが、さういふ心境になることが、我々の國體問題の中心であります。私共は、國體を信ずるが爲に、聖斷は常に最善の方向であると確信してをります。然し西洋の學問をした人の中には 天皇に最後の御決定を仰ぐことに對し内心疑ひをもつてゐるものが少くないのであります。今假に私は、百歩、千歩、萬歩下ります。聖斷には 天照大神の御魂が

加はつて、聖斷は絶対に正しいものとの私共の信念を今一寸横に置いて、多くの西洋かぶれの人と言ふやうに、さういふ靈的威力が聖斷に加はつてゐないものと、多いことではありますが、まあさういふことにして見ても、私は如何に聖斷が有難いかを考へるのであります。大きな國策の方向について議論して、右、左が分らない時がある。私共戦でもさうです。理窟から言へば、左から攻撃するより右から攻撃する方がいゝが、いざやつて見ると敵が準備してゐて酷い目に遭ふ。理窟からはをかしいが、左から攻撃すると、敵が油斷してゐてするくくと勝つことがあります。

勝敗は理窟以外に支配されることが多い。人事を盡くして天命を待つより仕方ない。人間にはそれ以上のものは持つてをりません。人間の判斷で正しいことが常に最高の成果を擧げるとはいへないのであります。要するに衆人が一致してやるといふことが、我々人間としては物を成功せしめる一番大きな條件です。臣民共が論争してどうしても意見の纏らない時は、最高の御存在である 天子様の御決定を待つこと

によつて始めて日本人が心から一つになれるのです。私は國體理論の研究、國體教育、政治組織などが總べて聖斷信受の一點に集中せらるべきものと主張してをるのであります。

私共日本國民は、聖斷には偉大な靈力の宿ることを固く確信してをるものであります。ところがこの間の朝日新聞の或るところに、かういふことが出てをり、私はこれを讀んで實に不愉快になりました。

「對米英開戦となつた、開戦の結果は豫期の如く皇軍の戦果赫々たるものあり、太平洋は激浪の吠ゆる裡にその相貌を一變した」

これを見て私は實に憤慨した。「豫期の如く」とは何か。實に生意氣です。最初に私申しました。ハワイの海戦、マレー沖の海戦、殊にハワイ海戦は、とても素晴らしい成功であります。然し私この間一月二日の朝日新聞に出た「〇〇基地に於て〇〇隊長の話」といふ、あの第一回の空爆をした〇〇中佐のお話を非常に感激して讀

んだのでありますが、あれを讀んで御覽なさい。我が海軍の將兵は最善を盡くしました。二十年間錬りに錬つた力の最善を盡くしました。然しそれだけであのハワイの海戦の成功を得たのかといふと、さうではありません。殆ど大した護衛もなく、全く敵に發見せられないでハワイ近海にまで航空母艦が行つたことが既に天祐であります。不良の天候を冒し、敵の不意に乗じて敢行した第一回の爆撃は、一回も敵に撃たれてゐないのであります。思ふ存分やつたのであります。非常な天祐であります。これを豫期の戦果とは生意氣です。宣戰の詔書の中に「皇祖皇宗ノ神靈上ニ在リ」と仰せられてをります。私共は感涙を以てこの大詔を拜するのであります。ハワイの海戦は斷じて一つの神風であります。豫期の如くなんて生意氣です。皇祖皇宗の神靈上に在るのですから、聖斷には必ず神靈が宿るのであります。この點私共としては今の若き人々に嚴重なる抗議を申込みたいのであります。

この際私の道の師である田中智學先生のことを一言言はせて戴きます。

世の中では日蓮は反國體的であるとか、田中智學はどうとか言ふ。私は實に憤慨に堪へません。輕薄な今の人の氣持、今、世の中が國體論が盛んになると朝から晩まで國體論を唱へるのであります。結構であります。さういふ氣持であるならば、國體の先覺者に対しては最高の敬意を拂はなければならぬのであります。世の中が全く西洋かぶれしてをる時に帝國憲法が發布せられました。帝國憲法は斷じて西洋の模倣ではありません。畏くも 明治天皇が皇祖皇宗の神祐を禱り給ひつゝ、御發布あそばされたものであります。この帝國憲法を日本國體に基づいて最初に講義したのが田中智學先生であります。世を舉げて西洋かぶれしてをる時に、斷乎として田中先生が日本國體を主張された。これは日蓮聖人の教へに基づいた大信念で、學者がなんと言はうが問題にならない大信念を以て講義をされたのであります。田中先生のお話を承つたことがあります。當時國體といふ字を何回印刷に出しても國體

と直す。國體といふ言葉は當時一般には殆ど使はなかつたのであります。田中先生が日蓮聖人の教義を大成せられて、明治三十六年大阪で一ヶ年の講習會を開かれたのであります。その講習會の期間中、明治三十六年十一月十一日橿原神宮の前で、『皇宗の建國と本化の大教』といふ演題の下に大演説をされました。この講演を爲されるに先立ち、神靈を遠く拜し、

すめ靈雲のあなたに聞しめせ天津日嗣のもとのみ法を

と二回朗詠し、そして建國の大精神を演説されたのであります。これは日本だけではない。世界の歴史に特筆せらるべき大事件であります。その講演の要領が三十七年日露戦争に出征する軍人に贈つた「世界統一の天業」として印刷されてをります。今日も版を改めて出てをります。是非一遍御覽を願ひたいと思ひます。歴史的、國寶的文献であると私は信じてをります。あの全國的西洋かぶれの中にあつて、田中先生は 天皇が道義を以て世界を統一せらるべきことを主張してをります。その田

中先生の國體觀は勿論日蓮聖人の宗教教義の根柢から出て來るのであります。この「世界統一の天業」は、單なる佛教的解釋ではありません、日本書紀の 神武天皇記に據つたのであります。今でこそ日本書紀の 神武天皇記をよく引用いたしますが、これは當時までは世の中から重視されなかつたものと聞いてをります。日本書紀編纂一千二百年にして、始めて田中先生によつて 神武天皇の建國の御精神が明かになつたのであります。

田中先生は、その前後に非常に苦心をして八絃一字といふ成語を作り、 神武天皇の御詔勅を八絃一字といふ言葉を以て表現してをるのであります。つい近年までは八絃一字といふとみな馬鹿にしてをりましたが、八絃一字が盛んに云はれる時代になると、こんどは人の言ふことに反對して、八絃爲字でなければいかんといふのであります。八絃爲字と八絃一字に就いては東亞聯盟(十二月號)に里見岸雄先生が書いてをりますから、皆さん御理解かと思ひます。今の王道排斥論者と同じやうに、

今のインテリは深い學問もしないで、如何に人の悪口に熱心かといふことを證明する例であります。里見先生は、田中先生の三番目の弟子さんであります。今立命館大學で憲法學を講義してをりますが、近く憲法の著書が出るさうですから、是非皆さんに御一讀を御勧めしておきたいと思ひます。多くの愛國者は西洋の模倣と思つてをつた日本憲法を御親父の田中先生が眞ッ先に講義された。この日本憲法が里見先生によつて始めて日本の解釋がなされたのであります。英國かぶれの天皇機關説は勿論、ドイツかぶれの天皇主體説も斥け、本當に日本の國體の精神、明治天皇の憲法發布の御精神に基づいて御親父田中先生の遺鉢を繼いで、里見先生が日本憲法を講義したのであります。始めて日本憲法が日本のものになりました。難しいです。憲法發布何十年で始めてかうであります。而もそれは西洋の學問をした今のインテリの手によつて出來たものではない、法學博士連中によつて出來たものではないのであります。

この國體の信念をもつてをる我々は、最終戰爭を信ぜざるを得なくなりました。八紘一字を信じてをる我々は、八紘一字は、遠き將來の夢ではなく、あなた方の時代あなた方の若い人の時代、少くとも我々の子供の時代には八紘一字が實現されるのであります。眼前のことになつて來ました。我々同志の世界觀は、「人類歴史ノ最大關節タル世界最終戰爭ハ數十年後ニ近迫シ來レリ」といふのです。即ち最終戰爭に勝つて八紘一字に入るといふことが、我々の世界觀であります。天皇が世界の天皇に御成りあそばすのだといふこの世界觀の無上の感激の下に、我々が本當に心靜かに東洋的の人生觀に徹底したならば、そこに民族協和は直ぐ生れて來るのであります。この我々の新しい世界觀、我々の固有の人生觀、その上に民族協和といふ新しい新時代の道德が生れて來ます。これが、昭和維新の原動力になると考へるのであります。

二、生 活

近時體位の低下が酷いのであります。厚生政策が最近始められました。今日の厚生政策は、重大なポイントを掴まへてゐないと思ひます。スポーツによつては必ずしも體位の向上はしないのであります。正しき生活によつて始めて我々の體位が向上するのです。古い西洋の宣教師あたりの書いたものがあるさうです。戰國時代の日本人は、世界で最も立派な體格の持主だつたらしいのです。戰國時代の鎧を我々が着たならば駄目です。和田君か、村井さんあたりはいゝが、中村勝正君なんか三人位入る(笑聲)。日本人の體格はとても小さくなつた。今の軍務局長の武藤中將から聞いたが、彼がドレスデンの博物館に行つて西洋人の着た鎧を見ると小さい。ドイツ人に、「君等あれ着れるか」と尋ねたら、「とても小さくて着れない」と答へたさうであります。日本人は小さくなつたし、西洋人は大きくなつた。それで、

今日の西洋人と日本人の身體の違いが出来た。これは、食べものを中心とする日本人の生活の墮落によるのであります。殊に明治以後になつて殆ど皆齒醫者に税金をかけてゐる。私のやうに齒醫者に金をかけないのは正しい生活をしてゐる人間だが、(笑聲)殆ど全部の人が金をかけてゐる。なんでも明治の初年に、齒醫者の開業に來た西洋人の商賣は成立たなかつた。ところが今日はどこへ行つても齒醫者がゐる。この原因は色々ありませうが、一番は我々の主食であるところの米であります。戰國時代は玄米を食べてゐたが、徳川時代になつてからは半搗米を食べるやうになり、明治時代になつて眞白い御飯となつた。また明治以後白砂糖と云ふ毒物を、製糖會社の宣傳家の如く小學校の先生まで、白砂糖の消費量は文化のバロメーターだといふやうなことを言ふので、日本人は盛んに食べ、今日の如き體位となつた。再びこれを正しき生活に還すことが必要であります。衣食住全部に互ひますが、先づ私は、玄米食をどこまでもお勧めしたい。不思議に東亞聯盟運動者には玄米食の運

勤者が非常に多い。静岡の中田録郎氏はその尤なるものであります。仙臺の鈴木文平氏の如きは今では玄米を生で食べてをります。鈴木氏の奥さんが脊髄カリエスに罹つた時、玄米を食べて癒りました。また小さい子供さん二人生れたのであります。が、玄米を食べる前の子と後の子とはまるで健康が違つてゐる、それ以來神様扱ひをしてゐる。玄米さへ食べれば、今の食糧問題は解決する。五千萬石あれば不足ありません。殊に、私は農村に先づ勧めたいと言つてをるのであります。最近農村の體位がとても悪い。この間弘前師團に行つて師團司令部の人に聞くと、百姓の體格はこの二、三年とても悪い。板垣征四郎大將の生れた附近即ち岩手縣の北、青森縣の東半分、これは稗を主に食つてゐるらしい、米が少い。それで私はよく板垣稗四郎と言ふと、非常に憤慨して、「俺は稗なんか食はん」と言ふ。「あなたは稗を食つたから偉くなつた(笑聲)。さう憤慨する必要はない」この邊は雜穀を食つてゐるせゐか、とても身體が丈夫らしい。所が農村は最近の食糧政策で眞ッ白の米を食べてゐる。

る。糠を馬に食はせて自分等は白米を食べてゐる。粕は白米と書く。馬に大事なものを食はせて自分は粕を食べて體位が退化してゐる(笑聲)。都會では贅澤やつてゐるから玄米はいやがるが、農村では必ず成功します。これは東亞聯盟の實踐運動として、正しく生きる革新運動の誰でも行ふ一番根柢です。この外私は小學校で腰掛をやめる、疊の上か、板敷きの上に圓座をおいてやれと申してゐます。坐ることによつて日本人の脚力が強く水泳で優勝した。和田君から説明受けたが、日本人の腰のねばり、脊柱が正しいことは静坐してゐるためです。ところが小學校から腰掛です。毛唐の眞似をして家も全部腰掛であればいいが、疊の上に女の子がスカートをはいてゐる。今の女學校の卒業生をきちんと坐らせて一時間講義を聽かせて、動いたらお嫁さんの價值がない(笑聲)としたら合格するものは何人をりませうか。しかし腰掛は便利であります。腰掛と坐るのを我々の建築様式の上に如何に活用するか大きな問題であります。更に着物です。着物の良し悪しが健康の重大なる問題で

あります。日本の着物は、健康保持のために非常によく出来てをつたらしいのであります。要するに我々は正しい日本の生活に進んで行くといふ意味に於て、石塚左玄氏の弟子の櫻澤如一氏の主張してをる食養療法も、全面的には同意し兼ねる點もありますが、この意見なんか大いに傾聴すべきだと考へます。「日本に適する衣食住」の著者の中山忠直氏、これは素晴らしい天才であらうと思ひます。日本の保健、日本の衛生、衣食といふ問題は根本的に革命されることを要求されてをります。

ところが、この頃、私、御紹介しておきたいのは、丸龜の同志杉田、竹林兩君からお勧めを受けて來たのであります。本年三十二歳の多田政一氏と云ふ理學士の方があります。この方の本を頂戴して來まし、が、私は非常に素晴らしいと思つて拜見したのであります。要するに、西洋人の生活は、自然を征服しようとして科學萬能に陥り、一見力強い生活のやうでありますけれど、人間の力は案外微弱のものでありますから、自然に反逆することは、何時の間にかやら大自然から恐るべき懲罰

を受けるのであります。自然に没入して極力大自然と共に生きようとする東洋人の生活は、非文化的のやうであるが、却つて身心の強健を得られるのであります。私共は多田政一氏の書いたもので、衣食住の中にはつきり王道霸道の區別を東洋と西洋の間に見るのであります。王道は自然に没入して行くことであり、霸道は自然を征服しようといふことであつて、却つて神に叛逆して霸道は倒れてしまふのであります。強さうで倒れる。多田政一氏の書いたものを見ると、今日アメリカ人は三人に一人の割で糖尿病に罹つてゐる。彼等は結局科學の力によつて滅亡するといふ。勿論私共は科學は大いに尊重しなければなりません。科學は我々が自然の大道に最も合理的に没入するための科學であります。大自然を征服することに使ふのではない。そこにか弱いやうであつて最後の勝利を得る筈のものを私共は持つてをるべきであります。私、十分研究した譯ではありませんが、協會の幹部の方に言つておきました。多田政一氏にお目にかゝつて御意見を承る。さうして、御尤もと思ふなら

ば、敬意を拂つて教へを受くべきものではないかと思ひます。

その次に簡素生活であります。

西洋人は素晴らしい大理石の大きな建物を作つて威張つてをりますが、いくら偉いものを作つたところで、この小湊(千葉縣)の山位です。富士山には敵ひません。大自然に巧く順應した生活をして行く日本人の作る物は、小さくとも廣大な大自然を背景として極めて偉大なものであります。西洋まがひで何でもさらびやかな豪壯のものばかり好むといふことは、反省しなければなりません。外來文明が來ると必ずそれを一遍日本人はやるが、遂にその精神を吸収して再び自然に親しんだ簡易で高雅の生活に復歸するのであります。

この間秋田の國防研究會の要求によつて、石川理紀之助翁の生地で三日間「國防論」の講義をやつて來ました。見るもの聞くもの悉く我々に無限の感激でありました。殊に一つ御紹介したいのは、石川翁が四十五歳で自分の家から出て行つて、三

十近いヨボくの馬に三升五合の米を負はせ、二十町ある草木谷といふ山に入つて行つたのであります。そこは腹その他の毒蟲がをるのであります。そこにあまゝり使はない若干の田圃がある。こゝに四疊半位の掘立小屋を作つて十年以上住んでをります。なぜそれをやつたかといへば、色々事情もありませうが、最大の理由は、石川翁がいくら貧農の改革を言つても、「石川先生は家が地主だからあゝいふが我々貧乏人には出來ない」といふやうな氣持を世の中でもつので、「身を以てやらなければ駄目だ」といふ考へで、四十五歳の石川先生が、妻子を全部置いて、掘立小屋で自分で開墾をやり始め、そこに一文も家から貰はずに自分一人でそれを經營して、立派な収益を上げて黒字にして十年ばかり暮してをりました。子供さんが亡くなつたために、已むを得ず家に歸つて來たが家の中には入らない。やはり小さい四疊半位の尙庵といふ庵を建て、極めて簡素の生活をして、而も香を薫じ、お茶をたて、一生の中三十萬首の歌を詠んでゐるのであります。それを綺麗に全部野紙に書いてを

ります。尤も惜しいことには草木谷の火事で前半生のものは失はれてをります。日誌は無論綺麗に書かれてをります。一寸私拜見したのであります。十一時起床と書いてある。先生病氣して寝坊したなアと思つてをると、前の日の十一時だ(笑聲)。秋田まで八里あるのを縣廳の役人の時に毎日歩いて行つた。一番早く出たらしい。極めて原始的の簡単な生活をしてをります。而もそこに高雅な生活をしてゐる。そこで一たび庵を出て百姓の指導になると、最新科學の利用です。かういふのが日本人の生活だと思ひます。日本人が楽しみをそこに發見し、剛健の精神、根強い肉體を持つて行くためには、このやうな日本人らしい簡素生活に移らなければならぬのであります。

殊に防空の見地から、最終戦争の終るまでは、野蠻といはれても徹底した位の簡素生活の準備をしなければいけません。最終戦争及びその前の持久戦争で、防空はとても大きな問題であります。幸ひ海軍の力によつて、現在までの所空襲は來ませ

んが、空襲を受ける覺悟はもたねばなりません。都市建設の防空對策に就いて國家も努力してをりますが、なか／＼出來ない。私も心ひそかに惱んでをつたが、結局簡素生活に徹底せよとの結論に到達した。空襲を受ければ焼かれる、焼かれたならば何が必要かを先づ研究する。生活に必要な最小限の家を、専門家の手を借らずに、市民自ら建てるやうに覺悟と研究をしなければなりません。各地の風土に應じて、健康保全に必要な最小限度を標準として建築を設計し、その家屋を建て、見て、その生活を體驗しておくべきであります。私は青年學校以上の生徒に建築を教へたらしいと思ふ。朝鮮人の家屋は、今日非常に参考になると思ふ。坑カキといふのは四疊半です。それ以上の部屋は普通の庶民階級にはない。おんどるを利用して布團は通常ない。火事があつても、男は煙草を吹かしながら見てゐる。女は流石に「アイゴー／＼」と言ひながら、壺のやうなものを以て水をかけてゐる(笑聲)。私は實に愉快だつた。次の日に、隣近所の者が協力して家を作つてをります。あすこまで徹底す

れば空襲は断じて恐れなひですむのであります(笑聲)。

それから青少年義勇軍の加藤先生のお弟子に、古賀氏といふ建築家で日輪兵舎を作つた人がをります。彼はとても色々面白い建築をやつてをります。あゝいふものを組織的に研究して貰ひたい。私は若しも師團長として北滿にでも行くやうなことがあつたら、兵隊として自分で家を建て、自分で耕し、自分で作つて最も簡素な生活をやつて見たいと思つてをつたのであります。北滿の開拓も日本人が新しい北滿の生活を建設して行つて、初めて成功するのであります。同時にまた北滿開拓で新しい生活を作り、新しい剛健の生活を建設することが、軟弱なる日本人の新しい生活を始めさせる動機になるのであります。防空の關係、北滿開拓、あらゆる見地からいつて、私は、今日日本人の徹底せる簡素生活を研究、體驗することを希望するのであります。

三、教 育

人間の能力を發揮するために教育が一番大切であります。然し今までは、學校即ち教育と思つてをりましたが、これは今日以後はいけません。社會全部即教育でなければいけない。百姓さんは野良仕事をやる田圃が道場であり、それが即教育であります。工場で物を作ることも教育であります。教育即ち建設、建設即ち教育である。學校教育は、その教育の一つの部面であります。このやうに教育の氣持を變へてしまふ。今日の學校制度は明治の勃興の木まな原動力であります。然し同時に大正以後今日の廢頹の原因が同じく學校教育であります。金がないから學校に入れなひといふ制度は、大體今日以後には許されなひことでもあります。さうして學校萬能學歴萬能でありますから、少し金のある者は、全部學校に入りたひ。無茶苦茶の競争をやる。競争も必要であるが、度を越えると大きな害をなします。今日は、中學

校以上に入つた連中は、大體利己主義者だ。如何に素質のいい人間でも、中學校の入學試験で、親と國民學校の先生から狭み撃ちを食つて、個人主義、利己主義の猛訓練をやられる。なんとかして中學校の入學試験に入らうと思つて、義理も外聞もない、個人主義の猛訓練を受けるのであります。でありますから「學校の教育があればあるほど、社會は國家は奉仕すべきものであるのは、却つて田舎の學問のない者ほど愛國的であり、社會に對しても己を捨て、奉仕するといふ逆の狀況を今呈してをるのであります。

それから今の教育の非常に悪いことは「惡平等といふことです。出来る者も出来ない者も一緒に教へる。私は小學校で割合出来る方でしたが、授業は一番出来ないピリを相手にするから、五十分の時間退屈して困る。仕様がなから、先生の際に乘じて前の頭をコッソと殴る。それから先生があまり油断してをると、奇襲作戦の稽古として、二三人あいた先を殴る。大體成功しますけれども、時々發見される(笑

聲)。「立てッ、家へ歸つちやいかん」といふ。確かに自分が悪いと思ひますけれども、どつか割切れないものがあつた。私の頑迷といはれる性質は、小學校で猛訓練をされた結果です(笑聲)。教育は引つ張つて行くことです。然るに抑へて縮まらせる。こんな出たら目のことはありません。それから、貧乏な日本が大量の生産であります。なるべく安く多くの者に學校教育を受けさせる資本主義的經營の學校によつて、生徒から搾取しよう利潤を取らうといふ學校營業といふ營業者が出來て、出たら目の先生を集めてやるから、徹底せる訓練は無論出來ません。お客さんと商賣人の間です。大體先生を敬はない學校に教育はあり得ない。この間日本主義を標榜してあるある雑誌を見ると、日本主義者と自稱する學生が、自分の先生の悪口を書いてある。これもインチキだ。それほど良心があるならば學校を退校すればいい。日本主義者も食はんがために學校へ入つてゐる。とても大きな矛盾があるのであります。さういふだらしがなく、而も勤勞しない學校教育の結果、池本氏の話によれ

ば農學士は百姓では飯が食へない人が多いのであります。この間或る工業技術員の養成所でこの話をいたしますと、そこにある指導員が眞赤な顔して、それは工學士も本當のことを言へば腕では飯が食へず、學歷で飯を食つてをるのですとの話でした(笑聲)。これが今日の大きな缺陷である。だから、學校を出た者はぐるになつて、政治的威力の下にインテリの贅澤な生活をやつて行かうといふのが今日の社會であります。

従つて學校を出てからの仕事は、各人の性格の適、不適ではなく、全部どれが一番儲かるだらうかといふことによつて決定されるのであります。こんな状態では國民の力を國防國家として最大限に發揮する道からは遠く外れてゐるといはなければなりません。

私共の主張する教育制度は、三つの點に就いて大きな革新を要するのであります。教育制度は、第一は指導者を教育の中に於て發見して、その指導者を徹底的に訓練

養成して行くことが重點でなければいけません。これは今日の統制主義の時代に於て當然であります。謂ゆる教育の平等は、最終戦争以後まで目をつむらなければならぬ。最高能率を上げるために、指導者を發見して、訓練することでありませぬ。第二は、教育即訓練即建設でなければいけません。第三は教育の中に合理的に國民に職業を分配するものでなければいけません。以上の見地から、昭和維新論の「教育の革新」が生れて來てゐるのであります。この私共の主張する教育の革新は、今の謂ゆる教育の専門家から見れば、突飛でせうが、私共としては出来るだけ穩健に書いてゐるのであつて、これ以上の根本改革をしなければ昭和維新は本當の軌道に乗らないのであります。

我々は昭和維新の中核として教育の革新に最大の關心を持つてをるのであります。が、「昭和維新論」にある改革を今すぐやれといふことは困難でありますから、我々としてはその中間として二つのことを提案するのであります。一つは青年學校及び